

巻頭言

シャボン玉よりも壊れやすい刻。
ガラスのなかの小さな世界。
思い出という名のセピア色の世界。

ここを出て行く時
僕はこんな風を感じられるだろうか。

いと
と
愛しい刻。

宝石箱のように大事に扱おう。
どんな宝石よりも輝いている君達がいるのだから。





巻頭言

3

詩①

6

・ 想いの破片 ひかけら

校内紹介

7

・ 校内折りこみ地図

・ モノノココロ

行事

14

・ 年間行事

・ 文化祭

先生紹介

38

詩②

41

・ 氷の上で

師曰く

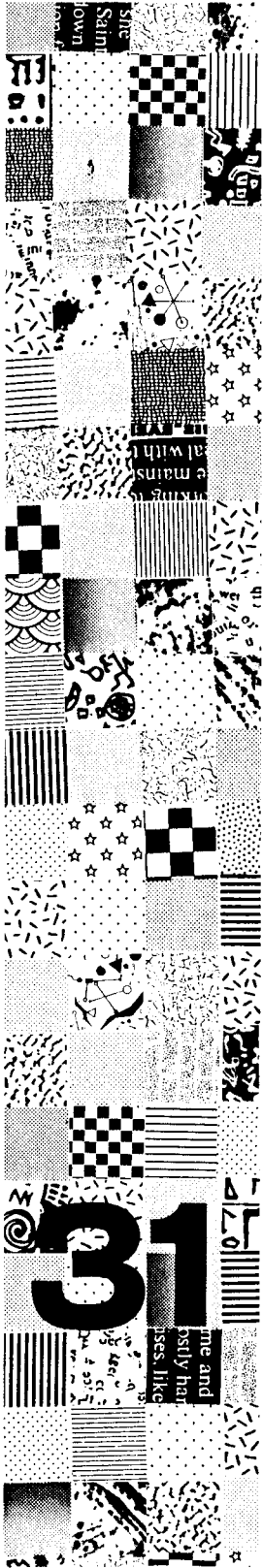
42

・ 山の想い出

理科 寺本 義男

・ サムサノナツハオロオロアルキ

国語科 吉澤 久良



・修学旅行

自治会

・ 函解・わかる自治会 & 自治会すごろく

スプリング31号特別企画

「エネルギーについて考える」

・ 原発Q & A

・ 自転車発電

・ 期待したいこんなエネルギー

・ 心の原風景

社会科 矢野 優

クラブ紹介

・ 各部紹介

・ こんなありませんでしたけど

詩③

・ PERIOD

編集後期

詩①

想いの破片かけら

美月弥生

“ある嘆き”

人を傷つけないければ

裏切らなければ 貫くことのできない想い——
止められるようなものなら
初めから想うことなどなかったのに——

“修学旅行にて”

写真？ そんなものはいりません

写真の中のあなたではなく
この瞬間 この世界に存在している
刹那のあなたが 好きなのです——

“不安”

必死になって追いかけて

やっとの思いで握んだ腕
確かに実在しているその腕が
いつか消えてしまうのが 恐ろしくて
ありったけの力で 抱きしめるのです

“苦しみ”

あなたに会う度 せつなくて

会えなければ もっとつらくて
けれど——

そんな私の姿を見せつけて

あなたの瞳を翳らせる苦しみに比べれば——

“大気”

いつの間にか

近くにいるのが あまりにも当たり前で

失うことなんて 考えもせずに

一人 我がままを通していました

あなたがいなければ——

息をすることすらできない私だというのに——

“想い”

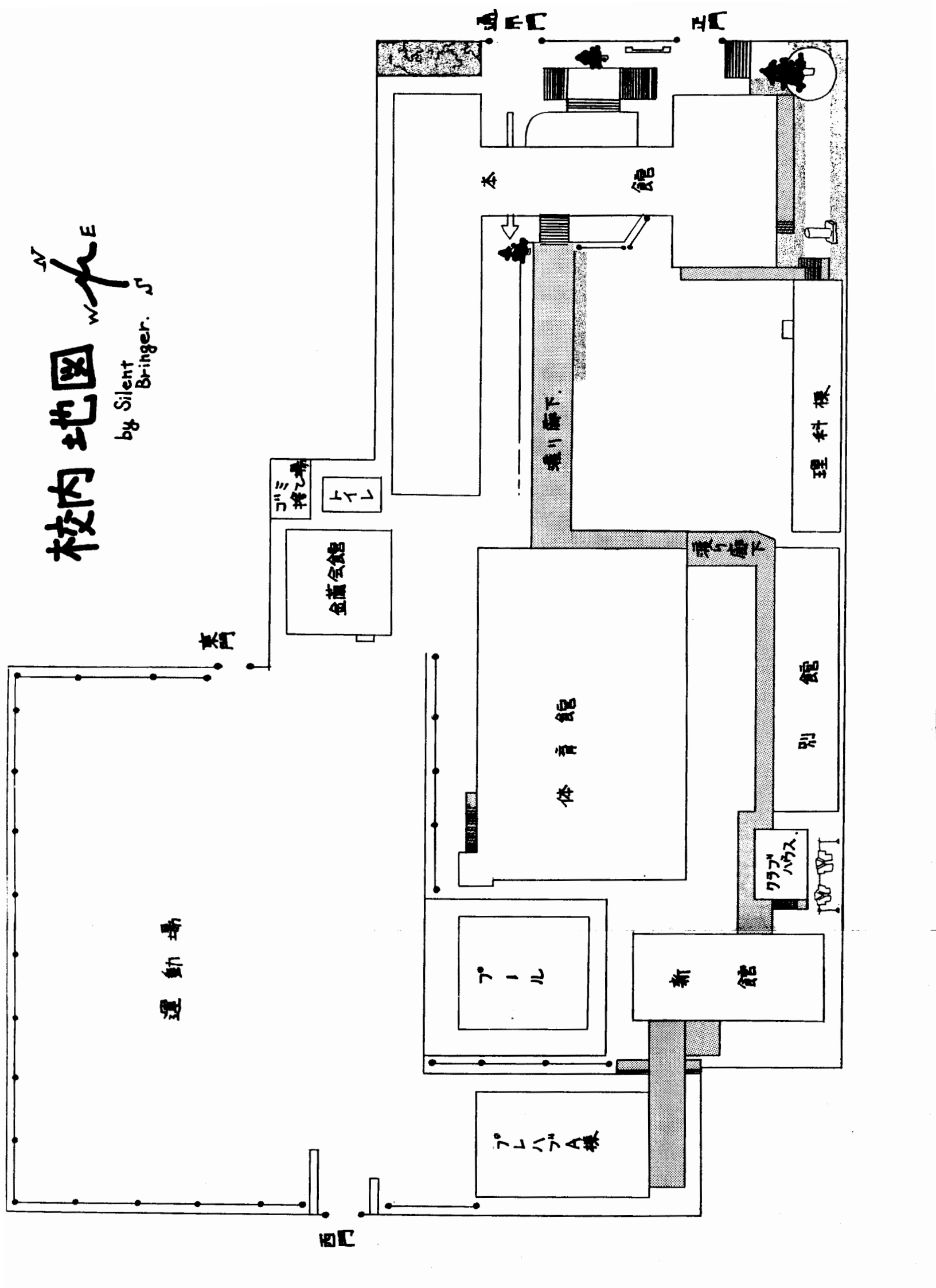
あの人の想い この人の想い……

ふわふわと浮かぶしゃぼん玉は

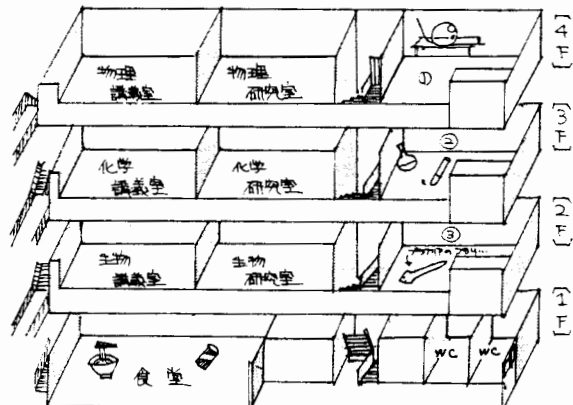
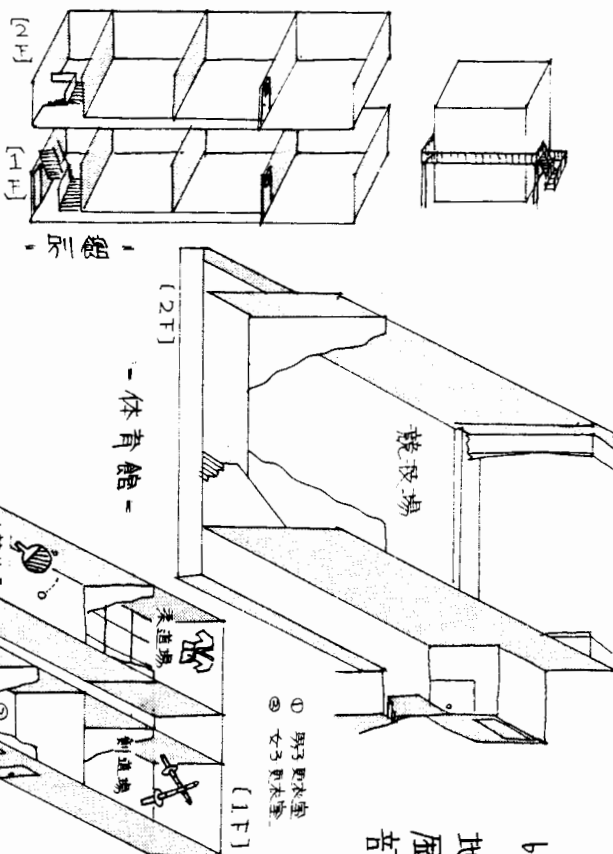
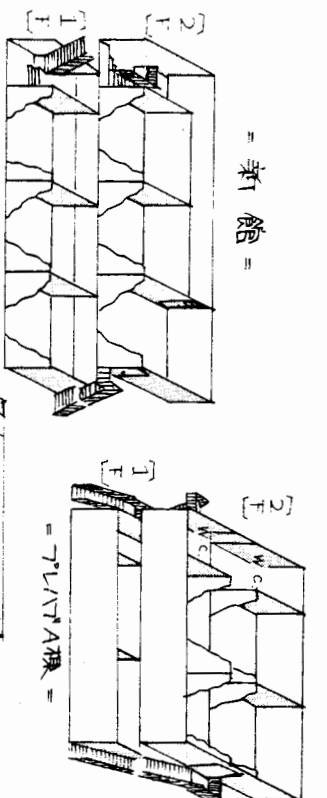
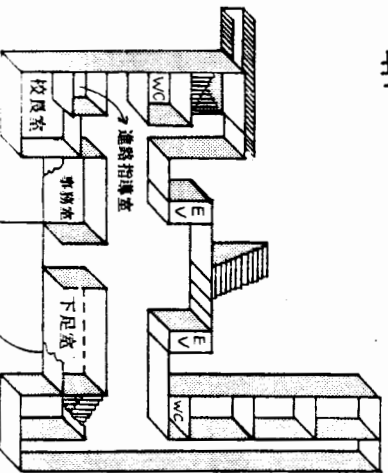
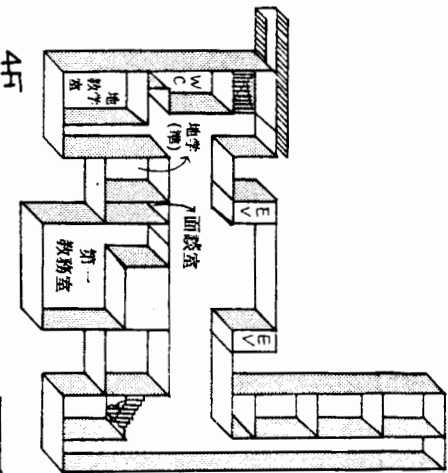
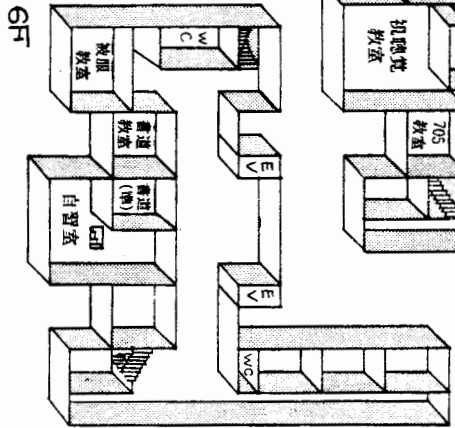
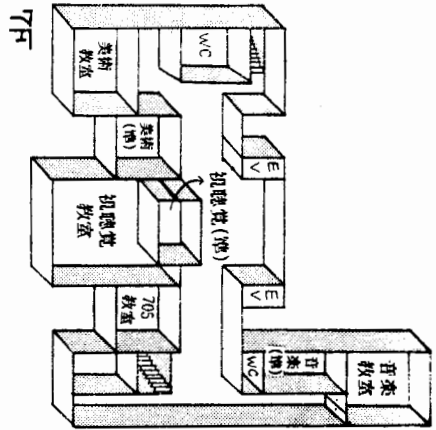
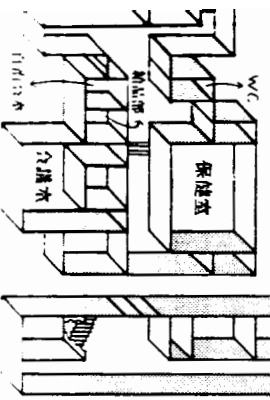
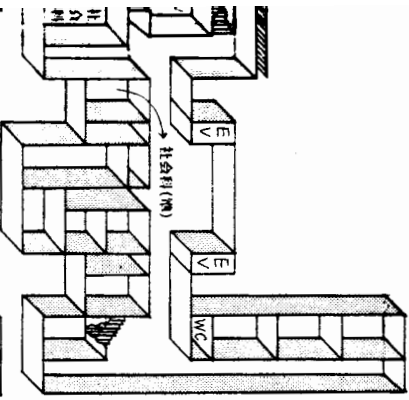
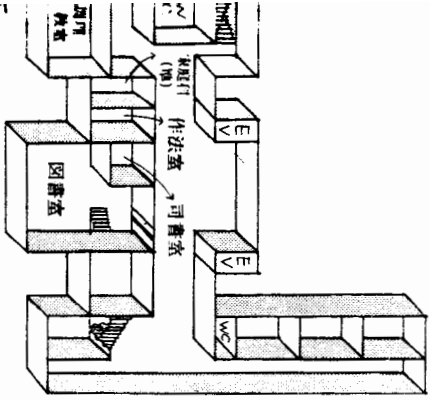
いつか壊れてしまうときまで
様々な色に きらめいて
人の心を 彩るのです——

校内地図

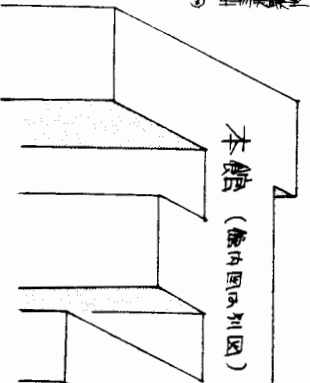
by Silent Bringer.



本館



① 男子更衣室
② 女子更衣室



① 本館(館内図は別図)
② 御座敷下
③ 御座敷下
④ 御座敷下
⑤ 御座敷下

モノノココロ

紺月ほうさく

▼僕は七階建の新本館です。皆さんが充実した高校生活を送れるように造られています。どうぞ大切に、きれいに使ってください。

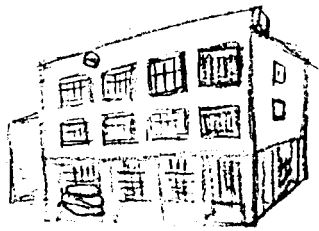
▼二階の進路指導室です。どうぞ気楽に入ってください。あなたの未来に対する夢の現実化を、お手伝いします。

▼五階の図書室です。ここには二五〇〇冊程の蔵書があり、きっと皆さんの人生にとって利益となる本が、見つかることでしょう。又、六階の学習室では、錦城（大阪城）を眺めながら、天下を望みながら、お勉強ができます。尚、大阪城遺品展示もあります。

▼姉の一号機です。妹の二号機です。双子のエレベーターです。そろってわがままです。一三五〇kg以上はお断りよ。おっとりした所は御愛敬。上へ下へと参ります。

▼靴箱を開けるとそこは手紙の山だった……なんてことあこがれる下足室です。

▼僕は正門の所に植わっているメタセコイヤです。生きている化石なんて言われていますが、僕は、僕なりに一生懸命生きているつもりです。本館工事の時は、切られてしまいうんじゃないかと心配しました。みんな、僕の事を年寄りだと思っているけど、昭和二十九年にあの京大から、苗木としてやって来て、たった三十年ほど。まあ、



人間さんとは、時間に対する感覚が違わらしいけど。

▼私は金蘭会館。大手前の同窓会の方々が、昭和十一年に建てて下さったの。昭和二十年、そう、あのいまいましい戦争のせいで、私の体は、爆撃を受けて半壊したのだけど、数多くの人達の協力のおかげで、九死に一生を得たの。

昔はここに補習科（俗称 金蘭大学）というのがあって、浪人生が「今年こそは……。」と意気込んでいたのも、今となっては、遠い思い出となってしまったのね。

▼僕は金蘭会館に付いている時計さ。いつも三時二一分を指しているんだ。時計の針が止まった時から、僕は時間を指すという忙しい仕事から解放されて、運動場を眺めながら詩作にふけているのさ。いつかみんなに、僕の作った詩を吟唱してあげたいね。コチッ、コチッと。

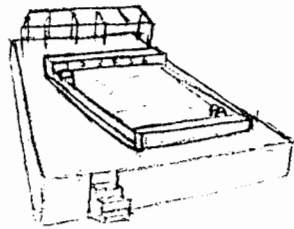
▼私の水はげが悪く、なおかつ大阪一狭い運動場です。しかし、一年間、私の上で行われる行事は、たくさんあります。月曜の集会は勿論のこと、体力テスト、バレーボール大会、文化祭でのフォークダンス、体育大会、校内大会などなど。一年間では、こうですけれど、もっと時を溯れば、ハリボテの鳩が燃やされたり、天満宮から借りてきた『かがり火』が舞ったり、戦争中は、野菜畑になったり、その又昔は、こちら一帯は、大手前高校（女学校）と御城ぐらいしなくて、あたり一面原っぱだったのですよ。

▼私は、この頃、真緑になってしまったプルです。お

かけ様でやっと耳が治りましたよ。いやあ、毎年、ある行事の為に耳が、おかしくなるんですね。皆さん、覚えていきますか。ピストルの音が校内に響き、水しぶぎと共に水中に泳者達が消えていったあの日を。確かテスト前にもかかわらず、プールサイドは満杯で、黄色い声援と言うのですか、むしろ金切り声ですね。それがこの上なく最高潮に達した次の瞬間、場内は静まりかえって、はじける様に拍手が起こると、そこにはVサインをする勝者がいたのですねえ。とにかく、テスト前であろうが、この様に『場に応じた動きをする。』というのが、大手前生の特質なんですなえ。

▼ボクはプレハブA棟さ。大手前の校舎達の間では『さすらいのスナフキン』って呼ばれているんだぜ。神出鬼没、パッと現れて、パッと消えるのさ。プレハブB棟の様に。

▼ゴホン、ゴホン、あたしは風よ。最近、どうやら風邪をひいちゃって……何か冷たい視線を感じるわ。けどね、こんな汚い空気の中に入れば、誰だって風邪もひくし、心だって擦れてしまうわ。だから最近、オバタリアン、おやじギャルとか、あの類の人が低年齢化しているんだわ。そのうち赤ん坊が、顔をしかめて産まれてくるから▼雨の日も風の日も、フツ、へっちゃらなのさ、体育館の中ではね。俺の事をアビールすると切りがない。フツそれだけ、大手前にとって必要不可欠なのさ。それに俺は、うるさい（私語厳禁）のと、グズ（五分前集合）が



嫌いでね。

▼僕は、女子更衣室です。もう毎日が、バラ色の生活なんです。もう感激なんです!! 神に我が身のことを、祈らなかつた日はありません、絶対に!!

▼僕は男子更衣室です。女子更衣室君が、あんな事を言っていますが、僕としては、その類の事は語りたくありません。ただ、皆さんに言いたいことは、僕の所に体育館シューズなどを、置き忘れないで欲しいというのが、貴重品の管理をきちんとして欲しい、以上二点です。

▼私は小競技場。中途半端な存在だし、鍵開けるのも一苦労だし、うん、今ひとつ存在感がないのよなえ、私って。

▼おいどんは柔道場である。『アタックNo.1』の時はバレーボール、『エースをねらえ!』の時はテニスと流行したが、最近やけに柔道部員が増えたのは、『YAWARA!』というアニメのせいではなく、君達が柔の道を理解してくれたからだと信じている。

▼冬には冷蔵庫、夏にはサウナと化するのが、この私、剣道場である。心身ともに引き締めたい者よ、素足脱帽でどんと来い。

▼あたいは新館よ。そうピンクのし・ん・か・ん♡なのに誰もあたいのそんな美しさを理解してくれないの。言うことはいつでも、「なぜおまえが新館なんだ。」って。もう、いやになっちゃうわ。でも、いい機会だから教えてあげる♡。あたいが生まれた昭和三七年には、あた

より若い子がいなかったの。だから新館と名付けられて、今日になっちゃった。ただそれだけよ。

▼おいらは、中庭にでんと構えているソテツウ。時たまおいらの事を『でっかいパイナップル』だと思ってる奴がいるが、そいつには、大手前生の資格はないぜえ。

まあ、ともかく、中庭が改装されるそうだな、風に聞いたぜえ。そりゃあ、ベリーナイスじゃねえか。そもそも

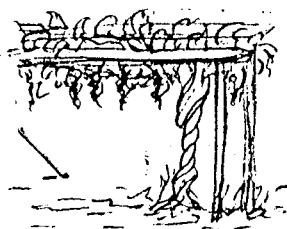
ここは、おいらを真ん中に扇形の四つの花壇があつて、樹木もたくさんあつて、にぎやかだったんだ。なんと駆逐艦のマスともあつたんだぜえ。そいつに天文部の気象

班の連中が、天気予報の旗を上げてえ、気象庁も顔負けだったんだ。そう言えば、『天下の大手前』と言いはやされたのも、あの頃だったなあ。

▼『校長室に女王おはせば、中庭に大王松あり。』

かつては旧本館と高さにおいて、競っていた吾も今日では新本館に見下ろされる立場となつてしまった。生け花の材料として重んじられているそうだが、ここでは大手前のシンボルとして眺めて欲しいかぎりである。

▼私は大手前の花形だった。シンボルとも言うべきものだった。春には花が咲き、味気ないボロ校舎さんを紫に染めて……その下でお茶会なんて開かれたりして、みんな紫の光を浴びて……きれいだなあ、きれいだなあ……褒めてくれて……。人間って、あまりにも勝手すぎませんか？ 池の水蓮も、パンク頭のソテツも、そしてこの私、藤の木も伐採されてしまいました。さぞかし、今度



の中庭は、素晴らしいのが、できるのでしょねえ。偽善者が「自然を大切にしましょう。」なんて言ったりして。

▼イエーイ、自分の分身を作ることにはか能のない池の中のゾウリムシだよーん。だけど君達のように進路とかで悩まない分、ぼくの方が幸せだよーん。

▼わたくし理科棟よりクイズ！

「化学講義室は何階にあるでしょう？」

答二階

『階数が増す程、難度も増す。』と覚えるといいですよ。つまり食べる事が一番、楽ですね。

▼はーはっはっはっ、私が、諸君があまりにも横着なために失業してしまった食券である。現在は府庁の食堂で働いているが、再び大手前の地で活躍したいものである。

▼「きちんとゴミ箱へ入れて下さい。」賢くなるジュースの紙コップより。

▼私は、あの淀君が使ったと言われる手水鉢よ。ここは新本館と府庁との間の庭。自治会の人達とかが『大手前公園』と呼んでいるわ。

私の他に、行啓記念の石碑、湯川秀樹夫人のもとから送られた桜の苗木とかがあるのだけど、何と言つても絵になっているのは、クスノキを囲んだ円形のベンチ、そうあの辺よ。

▼私はコンクリートの破片。旧本館の成れの果てです。うぐいすばり、迷路の様な作り、非常に少なかった便所の数、剥き出した配管など、とにかくあの頃の私は使

にくい校舎でしたけれど、藤に覆われた通称『金魚鉢』と呼ばれた部分、クラブ長屋など思い出深い部分もたくさんありましたね。

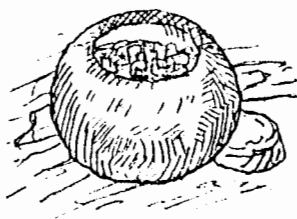
中之島、梅田を経てこの大手前の地で早くも七〇年。皆さんの先輩方が、旧本館での生活を思い出したように、私にとっても生徒の皆さんと共に過ごした日々は、忘れたい思い出となったのです。

一般生徒の立ち入りが禁止された前の日、うぐいすばりがいつもより、ひどく聞こえたのは、皆さんの足どりが、重たかったせいだけではなかったのです。

雨が降る度、風が吹く度に私の体が小さくなる様に、旧本館の事も忘れられてしまうのですね。

▼ほおーほ、わしが別館じゃあ。大正十一年に造られた旧本館が改築された今、校内では、昭和三年生まれのわしが、一番の年寄りという訳かい。まあ、早い話、一番ボロいんじやあ。けんど、わしをよう見てみい。ところどころに手の込んだレリーフがあるじやろ。まあ、この六十年間、色んなことが、あったのお。府庁の物置きにされたり、一階の奥のあの観音開きの部屋に、柔道場があったりのお、そう言えば、自治会室もあったのお。んー自治会と言えば、今も昔も立候補者不振とかで、低迷してるのお。よく言う三無主義のうちの無関心、『誰かがやるやろ。』という全校生徒の『自治会会員』としての自覚のなさが、響いておるのかのお。

けどのお、自治会会長がリコールされた事もあったん



じやあ。確か、その会長が文化祭へのクラス参加を認めなかったため、不信任発議されてのお。ほおーほ、昔の文化祭は、『文化の祭典』と言うより、『文化系クラブの祭典』じゃったからのお。その他、スリッパ問題、日章旗問題、クラブの顧問廃止などが、激しく論議されたのじやあ。激しく言えば、学生運動の窓口となったのが、社会研究部（廃部）じゃったのお。佐世保の米軍基地に突入したりなど？。じゃが、そういう活動を、校内では殆どしなかったのお。要領がいいと言うのか、ふっ。

まあ、時が流れ行くにともない、生徒の価値感が多様化してきて、個性派の人間が増えて来たのじゃが、出る杭は打たれる。"というのか。どんどんしらせて行くのお。それに全員、中学生の時、リーダー格の人材じゃったから、"ポーカーはできて、アンサンブルができない。"と言うか、お互い牽制し合ったりのお。そういうのを、"船頭多くして船、山に登る"というのじやあ、ふっ。

クラスで物事を決めるにしても、"楽しみたい、面白い事をしたいという自分勝手な思いを持っているくせに、しらせている。"とか。どうにか、ならんかのお、ほおっほおっ。

まあ、しらせて傍観者のマネをするのも勝手じやがあ、折角、大手前の敷地の上にいるのじやあ。何かに熱中し、燃えてみるべきじやの、それが青春じやてえ。まあ、将来、飛躍するバネづくりとしての、日常の勉強も大切だ

がのお。

「このクラス、おもろないわ。」という様な事を、心に抱いている人よ、人間関係とかで考え悩むことができるというのには、『生きていく』という証拠じゃてえ。自己を見つめて、時には人の言うことに屈してみなせえ、きつと新しい新しい視野が開け、そこから、探求心、好奇心が生まれ、至っては『三無（無責任・無関心・無気力）』をも克服できるじゃろうてえ。

どうやら、大手前の長老として、最後をピシッと決めたようじゃのお、ほーほお。

（参考文献）大手前百年史・スプリング・大手前新聞

*編集委員会 注

・中庭のソテツの一部は、北側の前庭に移築されます

・藤の木は中庭に藤だなどとして再生されます。老木なので伐採し、若芽を伸ばし再生されます。

行 事

さて一年生諸君、大手前では年間を通じてぎっこのだけのテスト・補充が行われる。心しておくように。その中でも平常考査は特に強敵だ。忘れた頃に来て来る恐怖のテストでお祭り行事を目前にしても容赦なく行われ、盛り上がった気分を一気に突き落とす。一教科だけだと甘く見ていると後で泣くのは自分だ。しかも大手前では、このためにテストのない月がない充実した一年を過ごすことになる。

四月	宿題テスト
五月	実力考査（三年） 中間考査
四～六月	平常考査（計四回） 期末考査
七月	考査期間後授業
夏休み	補充授業（三年） 課外授業（一・二年）
九月	アチーブメントテスト 実力考査（三年）
十月	中間考査
十一月	実力考査（三年）
九～十一月	平常考査（計四回） 期末考査
十二月	考査期間後授業（三年）
一月	アチーブメントテスト 実力考査（二年）
一～二月	平常考査（計二回） 期末考査
三月	期末考査

（一九九〇年度）

しかし、大手前の行事だってテストだけな訳ではもちろんない。そこで、細かい行事は生徒手帳を見て、詳しい内容は行事当日に自分でやってわかってもらえばいいが、一般におもしろいと思われる行事のほんの一部を取り上げてみようと思う。

その一 学年別行事

一年

入学式

初めて大手前の制服を着て学校に入る、期待で一杯の日。大手前のいろいろな事を知りたくてわくわくしていたことだろう。

この気持ちを三年間忘れなかった人には拍手喝采。

水泳訓練

夏休み前のテスト休みに行われるもので、遠泳だって何のその誰でも必ず泳げるようになる訓練である。とはいっても水泳好きの人以外は地獄を見るだろう。この訓練を乗り越えて、初めて真の大手前生になれるといういわく付き。

スキー教室

一年のメイン・イベントの一つである信州旅行。自由参加だが応募者が多くとくじ引きで居残り組に……などという御無体なこともあるのか。

（いぢおこし三三三三三三三三三三）

二年

修学旅行

特別に取り上げているのでそちらを見てほしい。

三年

予餞会

『前もって餞はなづけをする会』だが、一・二年はおろか三年にとっても鉄のカーテンの向こう側の存在で、行事内容は当日寸前まで黒いベールに包まれている。

卒業式

三年の門出の日。この時の気持ちはきつと口で言い表せるものではないだろう。在校生にとっては「螢の光」の代わりにカメラと花束を抱えてじっと待つ忍耐の日。

その二 全学年行事

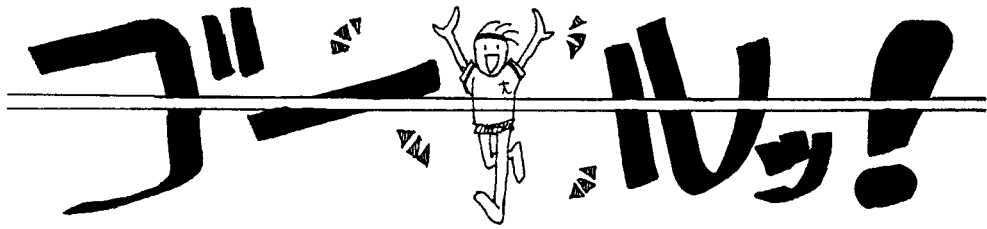
一学期

球技大会(バレーボール)

トーナメント式で丸一日かけて行われる大会で、皆の目がめらめらと燃え上がる。練習のときから相当の意気込みが感じられ、当日は燃えつきるまで戦う。これでクラスの雰囲気良くなる事も多い。

コーラス大会(予選)

文化祭での本選に向けて行われる。これの練習をする時期は一学期で最も多忙な日々を送ることになるので全てを要領よくこなしていける人・クラスがいい思いをするだろう。



二学期

水泳大会

夏休みが明けてすぐに行われる大会で、プールの周りは大騒ぎになる。これは個人よりクラス単位の競争が優先されがちなので、休んだ人の代わりに一人が二・三回出場する事もざらにある。

体育大会

狭い狭い運動場で記録会にも似た大会が行われるが、騎馬戦、クラブ対抗リレー、時には先生方の飛び入りなどもあり、会場は熱気と歓声の渦となり、デッドヒートが繰り広げられる。

球技大会(♠:バスケットボール ♡:ハンドボール)

昼休み・放課後に行うせいか、バレーボールの時より観客は少なくなりがちだが、三年からは執念にも似た意気込みが感じられる。

三学期

球技大会(♠:サッカー ♡:バスケットボール)

昼休み・放課後に行う上に三年が出場しない事もあって最も忘れられがちな大会。観客のいない運動場でサッカーをする男子の背中には心なしか哀愁が漂っている。

マラソン大会

女子は大阪城外堀を一周、男子は二周を走り抜く訳だが、この大会もクラスの表彰状に関係しているので皆必死で走ることになる。しかし、陰で雨乞いをする人も少なくないだろう。

文化祭

毎年六月中旬に行われる文化的な行事。たいていの高校が秋頃行うのに対し、受験生のことをよく考え初夏に行う。他校と日が重ならないで良かったと思うのだが、広くはない校舎のためにたくさんの人を招待することはできない。それが我が校の文化祭である。

文化祭は三部構成で、二日間に行われる。

一日は生徒だけの催し。校内（視聴覚教室・金蘭会館・体育館）と青少年会館の二ヶ所で開かれる。どれも捨てがたいので全部まわる人もいるらしい。タイムテーブルは下図参照。

もう一日は、前半は外来者も呼んでの催し。これは校内のみで行う。クラスの出し物・クラブの発表などで盛りあがる。去年はなぜか劇が多かったが、喫茶店やカラオケ、縁日や占いなどもあったのかなかなか楽しい。製作発表会を満喫した後は極めつけのフォークダンス。一般の人が帰った後、生徒だけで踊る。結構楽しいので、期待していいと思う。

気の抜けない日々の中で、ほっとひと息つく一日である。準備は限られた時間の中で行われることになるが、団結したクラスは良い作品ができあがることが多い。次ページは去年の文化祭で苦労されたクラス会長さん達にかいてもらったアンケートの一部である。少しでも今後の参考になると、うれしい。

10:00	11:00	12:00	1:00	2:00	3:00	4:00
青少年会館	演劇部 :15	コーラス班 :15	吹奏楽(前) :40	創作ダンス部 :50	コーラス大会 本選 :20	吹奏楽(後) :55 終了 :25

体育館	7-17 同好会 :00	映画1回目 雁村正巳監督	映画2回目	終了 4:10
-----	-----------------	-----------------	-------	------------

金蘭会館	軽音班 ニゼセス :00	よさあ	ニゼセス :20	GUERRILLA :00
------	-----------------	-----	----------	---------------

視聴覚教室

10:00より 素人知人会
(順不同)

- ・Sinderata
- ・Tanshin-Band
- ・24回
- ・とくさん



喫喫茶店が少ない・食物の規定が細かい」

一学年に一つしかない喫喫茶店。でも二つずつにすると、何か多い。食物に関しては「全く手を加えないこと」というすごい規定。責任問題になるのはわかるけど、水道の水すら使えないというのはひどすぎる気がする。

「運動場は使えない？」

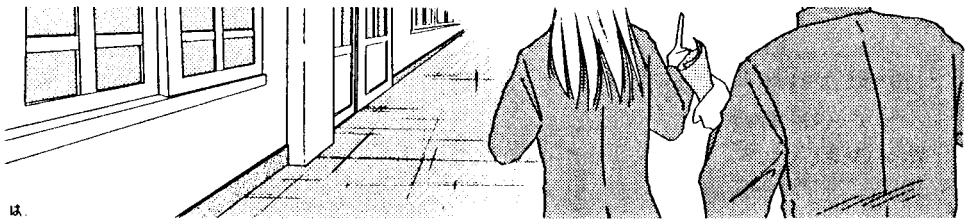
使いたいけれど、管理がゆき届かなくなると困る。水はけが悪いから、靴で耕すのも避けたい。

「展示する際、セロハンテープが使えない・ポスターの掲示数が少ない」

本館の壁のペンキがはげるとみっともないから禁止。黒板・窓・窓の枠とかも、まぎらわしくなる。でも別館とブレハブについては、許可しても良さそうなものだ。ポスターの掲示は管理できなくなるから少ないんだそうだけど、本館4Fと別館横だけでは少ない。みんなが変なところにはらない限りは、各クラスもう一枚分くらいは増やしてもいいんじゃないだろうか。

「校内のものを、劇に使ってはいけないのか」

机くらいは使えます。これは自治会ではなく、担任の先生を通して学校に交渉するのだそう。



「台本の提出日が早い・自治会との打ち合わせが短い」
台本の数を考えると、できるだけ早い方がいい。前回は全部で23冊あったはず、読む人の身になる。打ち合わせには必ず出なくてはだめ。毎回参加すれば少ないはずはないと思う。もしそれでも少なければ直談判へ。

「劇の入れ替え時間・割当ての時間が少ない」

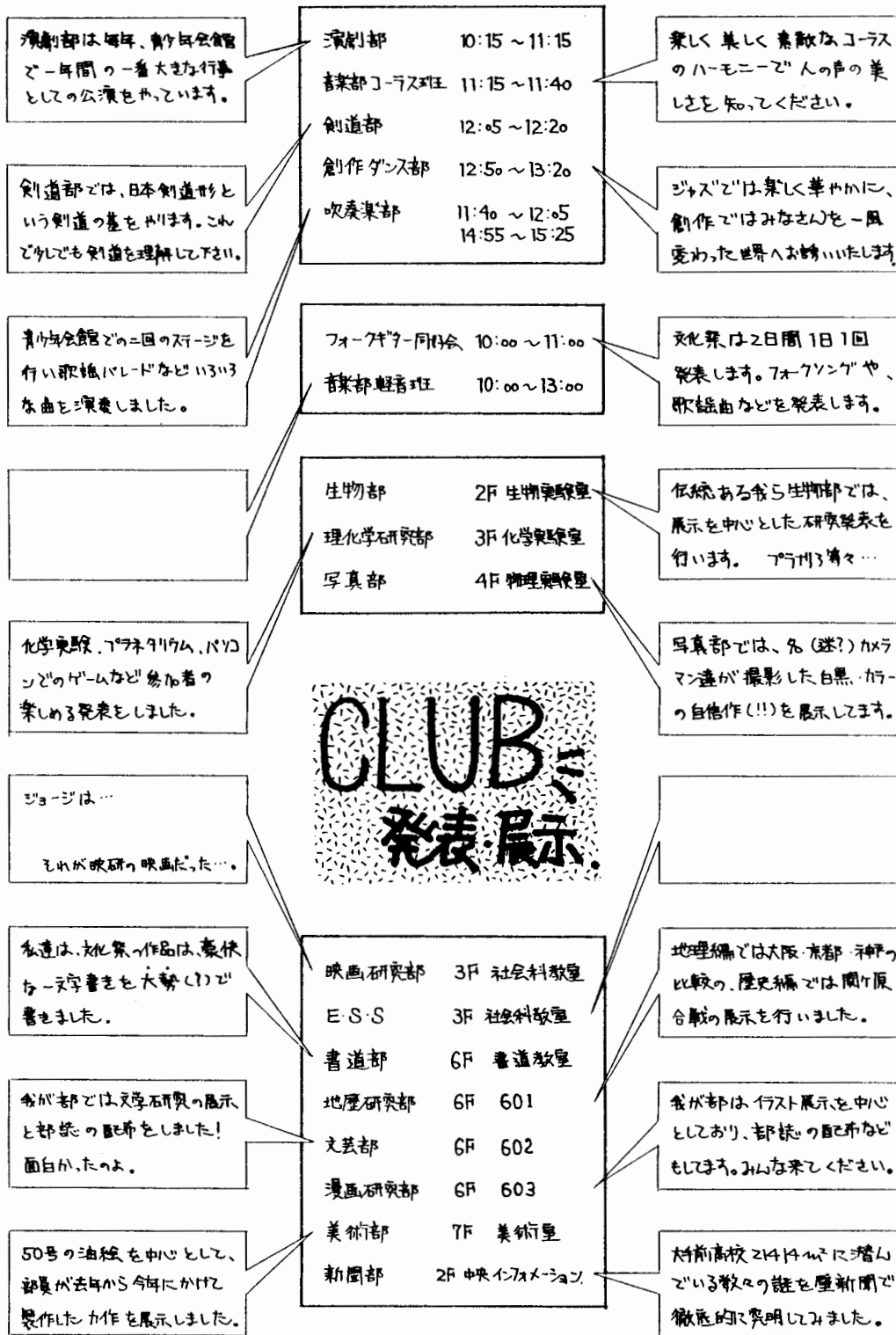
入れ替えの時間が長ければ割当ての時間が減り、その逆もまた然り。劇の場所を増せば客は分散、一クラスが三度上演することにもなり得る。ジレンマに陥る問題。

「自治会の文化祭の取り組みが遅い」

前期自治会が発足してからすぐ取り組んでいたのに、まだ遅い。それはひとえに発足してすぐなので自治会のメンバーがシステムを消化しきれてないからだろう。みんなでカバーしていくほかないようだ。

与えられているだけじゃ、不平不満はつのるばかり。だから、どんどん自治会へ意見を出してほしい。お互い協力すればもっともっと文化祭は良くなっていく。文化祭は全員参加がモットーなのだから、全員本気で文化祭に臨もう。

は。さて、今年の文化祭はどうなる！



修学旅行回想録

細田順彦

今年度の修学旅行は、霧島・屋久島・瀬戸内海を巡り、まさに陸と海の両面から「大自然とのふれあい」を大切にし、また趣向を凝らしたものでした。この修学旅行全体の企画・運営は、四月に発足した修学旅行委員会や担当の先生方の手によって進められました。また天候にも恵まれ、日程も順調に消化されました。

一日目、十月二十一日。早朝七時二〇分に新大阪駅に集合。一行は一路新幹線で九州博多へと向かいました。車内では、みんな和気藹々と、おしゃべりを楽しんでいきます。博多駅でバス十三台に分乗し、太宰府天満宮へと向かいました。来春の合格祈願でしょうか。各々一心に何かを祈り、決意を新たにしました。

二日目は、朝から霧島連峰である韓国岳への登山に挑戦。この日は一点の曇りもない快晴で、十月下旬とは思えないほどの暑さでした。登りは特にきつい道で、男女ともすっかり閉口していましたが、男子は（ここで男の意地を見せなあかん）とばかり、嬉しそうに女子の手を取り、「大丈夫か」と励ましつつ、女子もまたできるだけ自力で登ろうと、「大丈夫、大丈夫」と言いながら、一歩ずつしっかりと踏みしめ、頂上を目指していました。

夜は麓の宿泊地の林田温泉で満天の星の下、キャンプファイヤーが行われ、楽しい一時を過ごしました。友情の炎を囲みながら、総勢六百余名の男女が手を取り合い、流れる曲に合わせてフォーク

ダンスを踊る姿は、まさに一幅の名画にも匹敵する美しさでした。三日目は、午前中鹿児島市内の名勝を見学しました。また、磯庭園から眺めた白い太陽と青い海に映える桜島の噴煙を上げる雄姿は、何と言っても脳裏に強く焼き付けられています。

夕刻いよいよ客船「ニューゆうとびあ」に乗船し、洋上学校を開校。みんなはその船の大きさのため一様に驚きの声を上げました。修学旅行の舞台は、陸から海へと大きく移ったわけです。この客船は本校百周年の三年前（昭和六十二年）の修学旅行でも、四泊五日の全日程を共にしているという本校には縁のある客船なのです。

四日目、最後の観光地となった屋久島に上陸しました。「ニューゆうとびあ」が入港の際には、町役場の方々に歓迎のセレモニーを催していただきました。屋久島は手付かずの自然が残る数少ない箇所の一つです。緩やかな自然の営みの中に育まれた大きな杉は、私達に幾千年という壮大な時の流れを感じさせました。また、九州最高峰の宮ノ浦岳とその麓に育つ亜熱帯性の植物たちは、同時に自然の厳しさと優しさを垣間見せてくれました。

夜は波浪注意報の海に弄ばれ、動揺する「ニューゆうとびあ」の船内においてクラス対抗演芸会が行われました。船酔いに苦しみながらも、互いに励ましあい、クラス一丸となつての熱演には審査員を引き受けて下さった先生方も「甲乙付け難かった」とのことでした。

最終日、「ニューゆうとびあ」は大阪へ向かって風いだ瀬戸内海を航行、甲板では吹奏楽部によるミニコンサートが催され、その上には饗え立つ白銀の瀬戸大橋の姿がありました。その後は同じ甲板で最後の食事をバイキングスタイルで取りました。甲板をわたる風

は、昨日の波浪が嘘のように、頬をくすぐるのが心地よく感じられました。

閉校式は、洋上学校のピリオドでもあり、修学旅行そのもののピリオドでもありました。修学旅行のテーマソングである『マイ・ウェイ』が全員で合唱され、その歌声はホールはおろか船内一杯に広がり、修学旅行の最後を華々しく飾りました。

委員の一人の私が言うのもおかしい話ですが、この修学旅行の成功の陰には、自らを犠牲にし、誠心誠意クラスのまとめ役また学年全体のスタッフとして活躍した修学旅行委員二十六名と協力してくれた有志達の活躍がありました。

最初は仕事の多さに「なんであたしらがこんなことせなあかんのよ」と閉口していた委員たちも、段々と「次に自分は何をせなあかのか」という要領がわかってきて、徐々にはありませんが、準備がスムーズに進むようになりました。しかし、みんな不慣れなことには変わりありません。あれこれ仕事の詰めから出た問題の收拾にしばしば時間を割かれ、本当にやりたかった仕事を志半ばでやめてしまったということも少なくありません。ですが、担当の先生方や有志の協力で、かなりの問題点を効率良く解決していくことができました。

その中で、二日目のキャンプファイヤーと四日目のクラス対抗演芸会は全く彼らの手によって進められたと言っても過言ではありません。キャンプファイヤーは「火の神」と「サタン」に扮した委員と有志の迫真の演技によって幕が切って落とされ、フォークダンスも名司会の音頭で曲のスタートと同時に踊りが開始され、先生方を

「こりゃ前代未聞や、素晴らしい」と仰天させました。クラス対抗演芸会は担当主任・司会が相次いで船酔いに倒れてしまい、一時はどうなることかと心配しましたが、冷静な委員と有志たちによってどうにか最後までプログラムをこなすことができました。中には所謂「鬼太郎袋」を片手にクラスの船酔いした生徒に「大丈夫、大丈夫」と声をかけ続けた委員もいたそうです。その他にも、洋上学校の開・閉校式の準備など目に見えないところで、彼らは東奔西走していました。委員会発足当時「えー」と閉口していたとは思ってもいぬほど。帰阪後の十月三十日もって解散してしまうのが、勿体ないほど。

彼らは、最後には自分達の仕事に自信と誇りを持っていたのでしょ。洋上学校閉校式の最後に修学旅行委員二十六名がホルのステージ前に一列に整列し、みんなから慰労の拍手を受けた時ある委員の顔は「やった」という充実感が満ち溢れ、ある者は溢れ過ぎてそれが涙に変わっていた者もいました。彼らは、修学旅行のスタッフとして仕事を進める中で、自分の思うことを正確に伝えることがいかに大変か、わずか五十人という人間をまとめることがいかに大変かを感じたことでしょう。そのことが彼らのこれからの人生の糧になることは請合いでしよう。

こうして修学旅行は幕を閉じました。しかし、私達の人生の船出はたった今始まったばかりです。そして私達の心には『マイ・ウェイ』とともに素晴らしい思い出が残りました。この修学旅行が、いつまでも私達の学年全員を結び付ける強い絆であってほしい。そして、その素晴らしい思い出を回顧しつつ、また、みんなの人生の航

海の成功を祈りつつ、もう一度共に『マイ・ウェイ』を歌おうでは
ありませんか。

今 船出が近づくこの時に
ふと佇み 私は振り返る
遠く旅して歩いた 若い日を
すべて心の決めたままに

愛と涙と微笑に溢れ
今思えば 楽しい思い出よ
君に告げよう 迷わずに行くことを
君の心の決めたままに

私には愛する歌があるから
信じたこの道を 私は行くだけ
すべては心の決めたままに

1990年修学旅行旅程表

10月21日(日)	J R新大阪 ◆◆◆ 博多 ― 太宰府天満宮 ― 宮原SA ― 霧島 (7:20集合) ホテル林田温泉㊦
10月22日(月)	ホテル林田温泉 ― 韓国岳登山……えびの高原 ― ホテル林田温泉㊦
10月23日(火)	A団：霧島 ― 磯庭園 ― 城山・黎明館 ― 鹿児島港 ～ 船中㊦ B団：霧島 ― 城山・黎明館 ― 磯庭園 ― 鹿児島港 ～ 船中㊦
10月24日(水)	A団：宮ノ浦港 ― 尾之間自然公園 ― 屋久杉ランド ― 宮ノ浦港 ～ 船中㊦ B団：宮ノ浦港 ― 屋久杉ランド ― 尾之間自然公園 ― 宮ノ浦港 ～ 船中㊦
10月25日(木)	～ 瀬戸内海遊覧 ～ 大阪港 (天保山・17:00解散)

(凡例：◆◆◆ 鉄道、― バス、～ 船、……徒歩)

修学旅行名句選

(二年国語科選)

太宰府天満宮にて

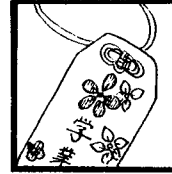
秋晴れに白馬はふるさを見つめたり
紅葉もかなわぬ巫女の美しさ
木の実落つ色づく宮で祈りけり

ホテル林田温泉にて

吾が旅の宿に茂れる秋桜

九面太鼓鑑賞

星空も九面太鼓に揺れにけり



浅野 貴弘
中島 博嗣
山本 啓之



宮本 佳恵



佐々木 義和

フォークダンス

手をつなぎ星月夜の中はほ染める
秋風がフォークダンスの輪の中に
語り合う友のうしろに月の影

韓国岳登山

赤蜻蛉韓国岳に吸い込まれ
足元のりんどろにさえ気がつかず
ポケットにつめて降りたし秋の色
紅葉も見ず 知らぬ目、手、声に支えられ
すすき野を草笛の音通り行く
山道にそつとたたずむアザミかな
すすき野に涼風の通る道ありき
落日のあかねにそまるすすきかな
次の足場に枯れ落葉一枚
旅人の思いやさしく落葉踏み



畑中 佳子
小西 絵美
中 裕美子



大空 等
住友 紀子
中井 信彦
田中 規与子
安田 志乃
下農 綾子
権安 英行
渡辺 晋
山田 一隆
高橋 知子

磯庭園にて桜島に臨み

かまきりや灰にまみれて草の蔭

車中にて

夕焼けのすべての赤のにじみたる
車窓から見えるコスモス秋の風

ユートピア船上にて

甲板に白い風吹く秋の午後
夜ふけて窓の海には月明り
瀬戸の海南に向から渡り鳥
紅葉の岬の沖に白き船
乱れ髪も気にせず秋の潮を聞く



北田 拓也



原 摩矢子
松井 晃子



武岡 圭介
西村 裕子
千代丸 雅子
鳥山 敦
斎藤 香織

秋光や 海に根を張る黒^{くろ}き山

屋久杉ランドにて

ポケットにどんぐりひとつ旅土産
つり橋の上にも落葉降りつもる

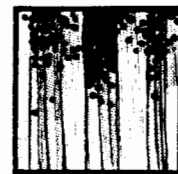
尾之間自然公園にて

思い出は色とりどりの花の色
ふと見れば蝸^か螂^ご歩^りく落葉かな
すすき野や流れるように時は過ぎ

ユートピア船上コンサートにて

サクソスの音色吸い込む鱗雲

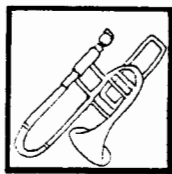
松本 淳



山田 行茂
榎 恭子



堀上 恭子
川西 剛司
上田 陽子



丸山 真一郎

自治会

今回、スプリングでは自治会に対する要望、意見などを募集し、それを自治会本部役員の人に読んでもらって、感想を書いてもらいました。皆さんから寄せられた意見の中にはかなりするどいものもあり、投書箱に入れられるものはまたちがうもののように、役員の人たちも、興味深く読んでくれたと思います。自治会本部は、何をやっているかわからないというイメージを取り除くべく、「開かれた自治会」を目指してがんばっているようですが、そういったことについても、話がきけたのではないかと思います。

それでは、みなさんからの投稿を二つ読んでみて下さい。

*

自治会に不平はない。不満もない。だからといって、満足か、と聞かれて、はい、と言える用意はこちらにはない。

自治会には文句は言えない。実際よくやっているから。見えない所での活躍はすごい。まさに縁の下の力持ちである。だから僕達は自治会に任せっきりの形で今まで来た。

*

この「任せっきり」という状態は、あの殆んど無意味ともいいたくなるような生徒総会を生む。例えば予算、もしくは決算報告の時「静かに」と何度言っても静まらないのは、生徒の自治会への関心度の低さからくるものと言えなくもない。つまり「任せっきり」の状態が「あつてあたりまえ」「すなわち」「無関心」を生んでいるのだ。生徒が無関心な生徒総会は全く無意味といえる。

ではどうすると生徒の無関心を無くすることができるか。その方法

の一つとしては、自治会の活動をもっとアピールすることだ。「あくまでいぶ」を出しているじゃないか、と言われるかも知れないが、あれはある意味で結果を掲載しているだけで、その経過は書かれていない。必要のないことかも知れないが、要は皆に「自分も参加しているのだ」という意識を持たすことができれば良いのである。だから経過を載せるということは、生徒と自治会の考えを同時進行させることを可能にする。そうなると代議制みたいなものの意味も問われそうにもなるのだが、あくまで自治会は生徒の代表であるはずなのだから、数人の役員のみで見えるのではなくて数百人の視点から考える、そのために数百人の自治会員の関心をもっと集める努力をして欲しいのである。

*

*

率直に言って、現在自治会が我々一般生徒の希望するようには働いていない。予算や行事などに時間をとられ、学校生活の上で最も基本的な事項は先生方の手にゆだねられている。生徒手帳を開いて見たまえ。この中の記述に非現実的なこと、時代おくれなことが全くないとは言えないだろう。そういうところから自分達の手で改めてゆくべきだ。

一般生徒の自治会に対する姿勢は生徒総会の様子を見ればすぐわかる。予算について誰かが質問をしたことがあるのか。承認の時に心から納得して手を挙げる者が何人いるのか。形だけの総会と事務的な仕事。今の自治会は官僚化している。

だからだと書いてきたが、この状態が決してよいものだとは思えない。このままゆけば、一般生徒と自治会との溝は深まるばかりだし、しかし自分は、真に改革が必要な時には必ず有能な人物が登場して

くれると信じている。

*

というわけで投稿された文章を二つ掲載しました。どちらもかなり個性的でした。では、これに対する本部役員（二年・学年代表）の感想を読んで下さい。

*

*

*

自治会。この言葉をきいてどう思いますか。やっぱり本部の数人の役員が会議をやってたりするのを思い出すのでしょうか。そうでしょね。だいたい自治会というものは全員が会員であるということは皆が知っているはずなのに、自治会という言葉を聞くと、自治会本部のことを思ってしまう。かくのごとく書く私もその一人ですが。で、この二つの文章を読ませてもらいました。そして、これらの問題について、それは何故かと考えてみました。一つめの文章に「任せっきり」の状態が「あつてあたりまえ」すなわち「無関心」を生んでいるのだ。」とありましたね。これを読んで私は思いました。自治会は空気みたいな存在だな。この学校に来た時から、あたりまえのようにあつて、あたりまえのように活動していて、なくなったらどうしようもなくなつて……。そう思いませんか。で、それが無関心さにつながる。それはもう大気汚染の始まりです。例えば文化祭。先生はおっしゃいました。「昔はこんなに厳しくなかつてんけど。」新一年生の人たちには意味がわからないでしょうが、六月になればわかると思います。文化祭だけでなく他のあらゆる行事は、かなりの所で自治会の手によって進められています。空気みたいな目に見えませんが、しっかりと存在しています。しかし、無関心な人達の行為により、空気が汚染されていきます。自治会役員

の手をそういったことでわずらわせると、別のもっと大事なことで、すべきことができなくなつてしまいます。また度が過ぎたものになると、文化祭の制限事項が増えてしまつたりするのです。それだけではありません。二つの文章にも出てくる、あの生徒総会です。私たち役員は真剣に悩んでいます。二千近くいる生徒の皆さんの、一体どれくらいの方が、前で、例えば会計の報告をしている人に耳を傾けているでしょう。大部分の人は「どうでもいい」と思い、「話が長い。」「どうせ誰も聞けへんねんからやめた方がいいの。」とか「ええかげんはよ終われ。」とか思っているらうと、あの様子では、だれもが思つてしまいます。また選挙では、「誰かがやるやろ。」といつて誰も立候補しない。実力がある人もたくさんいると思うのですが。また、何とか立候補者が出そろつて、信任投票で○×をつけると、本当にこの人ならよい。あるいはこの人には任せるのはやめた方がいいのではと考へて投票する人がいるでしょうか。「誰がやつても同じ。」といつてきとうに○×をつけてしまう人も多いと思います。二つめの文章には、「自治会は官僚化している。」「この状態が決してよいものとは思わない。」とありました。が、自治会を官僚化させるのは、まさに一般会員の皆さんの無関心さ、そして行事を、学校生活を有意義なものにしていこうという積極性のなさです。「この状態が決してよいものとは思えない。」のなら、あなたが何とかするんです。あなたにも被選挙権は当然あります。文句なら誰だって言えるんです。こうもありませんね。「率直に言つて、現在自治会が我々一般生徒の希望するようには働いていない。」それなら希望を私達に伝えて下さい。できる限りのことはしますから、こんなこと言うのも何ですが、自治会には権力ではない力

があると思います。昨年のように制服を廃止するとかそういうものはどうしようもありませんけど。

とここまでさんざん言いたいこと言わせてもらいましたが、自治会に反省すべき点がないということでは絶対ありません。実際、「スプリング」は文化部が作るのですが、これを作るのにも、何人の人にご迷惑をおかけしたことか。その他、行事などでは、綿密にたてたはずの計画が、その通りうごかなかったこともありま。こういった失敗というものは、活動を客観的に見ないとみつかからないものだと思うので、もっと活動を客観視できたならもっとたくさんみつかると思います。そしてそれらのミスのために迷惑をこうむった人もたくさんいると思います。そういう皆さんがヤル気をおこせば、自治会がすごく盛り上がると思うんです。そうなってくると、「一般生徒の希望するように働く」と思うんです。

今までかなり好きなことを書いてきました。反論の嵐が吹き荒れていることと思います。私の言いたかったことは、自治会というものは皆さんの協力なしでは成立しない、役員の人はまだ踊らされるだけになってしまう、ということ。これが出るころには私の任期はほとんど終わっています。是非とも反論をいただきたいので、次回の選挙までに反論をお待ちしております。どしどし自治会室まで、できれば文章でいただきたい。反論が多ければそれに対する反論がスプリング32号にのるかも知れませんね。では、くだらなく、腹立たしい文章だったでしょうが、ここまで読んで下さった方、どうもありがとうございます。これを読んでいただいたことによつて、少しでも自治会に関心をもたれた方がいらっしやれば、これほどうれしいことはありません。

ということ、役員さんの感想でしたが、少し一方的すぎるような気がしますね。反論書こうかな。

このページまで読んで、あるいは読まなかった人も、左の方に折りこみページがあることに気付くでしょう。今回はこのページをいつもと違ったページにしようという役員さんたちの協力を得まして、「図解わかる自治会」と「自治会すごろく」なるものを作っていました。図解わかる自治会」の方は九〇年度後期自治会会長の中村さんによるもので、これまで自治会のことを説明したものはいろいろありましたが、これはその中でもいちばんわかりやすいものだと思います。皆さんはどうでしょうか。また、その裏の「自治会すごろく」は、これで遊べば「自治会のすべてがわかる」そうなので、遊んでみて下さい。一九九〇年度の自治会の活動内容をもとに、ほぼ事実に基づいて作られているそうです。

先ほどの一つ目の投稿に「自治会をもっとアピールすればいい」という意見がありました。これらのものをみて、それを達成することができないかと思えます。「何をやっているかわからない」ということは、このスプリングを読む限りはないと思います。しかし私たちが興味をもたないとこんな作品も何の役にもたないわけで、今回「自治会」を担当して、やっぱりもう少し協力しないといけないと思えました。

では、大手前高校、そして同校自治会の繁栄を祈りつつ、終わりにしたいと思います。

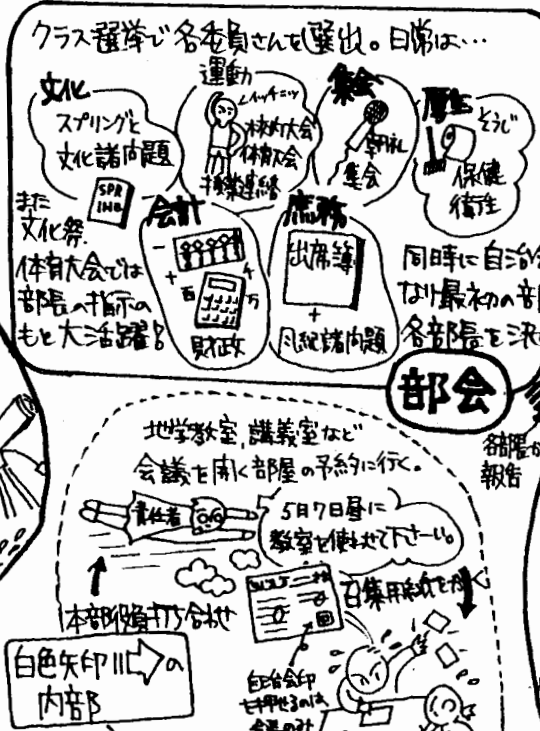
図解・わかる！自治会 - 基礎からの自治会会則 -

Question: 私は大手前高校のナオコ。一年生の時はクラス副会長をやりました。会長の男の子がしかり者だったので安心して、会議は呼ばれるのは私ばかりで友達に「自治会本部で勝手に文化祭の規則作りなんてサレー。」と言ったけど、なんだか私にも責任があったみたい。後悔はたくないも、とENJOYしたいから今年もう一度クラス副会長をやります。自治会の事、わかりやすく教えてください。



Answer: 大手前はみんなが**自治会**の**員**。文化祭や体育大会と色々な企画はみんなの意見で決まります。**自治会**の**代表**であり**クラス副会長**はみんなの意見をまとめて会議を開き、全クラスで統一した規則、約束事を作ります。だからとても**民主的**。そしてこれらの企画を成功させるために**クラス会長**は**みんな**で決めた**規則**に従ってクラスをまとめます。また庶務・集金・厚生などは**クラス委員**は快活で合理的な生活のためにクラスのリーダーとなり、文化祭、体育大会などの行事の時には**自治会部員**として各部で協力して働きます。

その中で、道を作っていくのが**自治会本部役員**たち。大切に責任のある仕事だから生徒全員で**選挙**をして選びます。だけど、千何百人もの会員の活動も勝手に決めたりはしません。



スプリング31号特別企画

エネルギーに ついて考える

あたり前のようにあって使われているエネルギー。本当に当たり前のものなんでしょうか。スプリング31号特別企画では、エネルギーについて少し取り上げてみることにしました。これを読んでエネルギーに対するみなさんの気持ちが少しでも変えることを私達は期待します。

・原子力発電Q&A

・自転車発電

・期待したいこんなエネルギー

原子力発電Q&A

近年さまざまな論争が行われている原子力発電。いろいろと疑問を抱いている方も多いことと思います。ここでは、いくつかの疑問とそれに対する解答（通産省、資源エネルギー庁編『90原子力発電―その必要性と安全性―』より引用）、さらにその解答に対する意見（各種文献を参考にスプリング編集委員会内原発研究班でまとめたもの）をいくつかとりあげてみました。

Q1：原子力発電は建設に石油を消費するので、代替エネルギーにはならないという話は本当ですか。

A1：原子力発電は十分石油の代替エネルギーになります。いくつかの試算がなされていますが、ほとんどの試算で原発のために消費するエネルギーより原発によって生み出されるエネルギーの方がはるかに多い、という結果になっています。

また現段階では、原子炉の廃止費用や放射性廃棄物の最終処分費用は含まれていませんが、これらのコストを含めても一割程度の増加と見込まれています。

ですから原子力は建設に石油を使っても石油の代替エネルギーになることができます。

意見：原子力は遠からぬうちに涸渇する石油の代替エネルギーの主役だ、という主張が原発推進の根拠としてしばしば語られま

す。これが本当かどうか、石油と原子力の違いを考えて話を進めていきましょう。

石油は、自動車のガソリンになったり電気を生み出したりして、エネルギー資源として使われますが、ほぼ六割は化学工場に送られて、プラスチックなどの原料となっています。つまり石油は、エネルギー資源であると同時に原料資源でもあるのです。

ここで原子力を考えてみましょう。かつて車や飛行機を動かす発電も行って……といった夢があった原子力ですが、今では飛行機はおろか車も動かせていない、辛うじて発電をすることだけができている、というのが現状です。

ですから、原子力は石油の使用法の一つである「発電」はできませんが、石油のそれ以外の代わりをすることはできません。（もちろん原料資源としては使えません）

また原子炉の廃止費用や放射性廃棄物の最終処分費用は、現在のところはつきりとは分かっていない状態なのです。何しろこのことに関しては技術的に未確立なのですから。

「石油がなくなると今のよう便利な生活はできません。だから原発を」という話を耳にしたことがある方も多いと思います。でももし石油がなくなればウラン鉱石も掘れないし核燃料の輸送もできません。この話は随分矛盾しているのです。石油がなくなれば、原発が動かなくなるのには目に見えているのですから。

こんな風に原子力は全面的には石油の代替エネルギーにはなれません。それに、何よりも廃棄物の処理技術もまだ確立

されていないという点で安全性に大変な問題のある原子力発電を今、続けてもいいのでしょうか。せめて一番重要な安全性が確保になるまでは続けられない方がいい、と思うのですが。

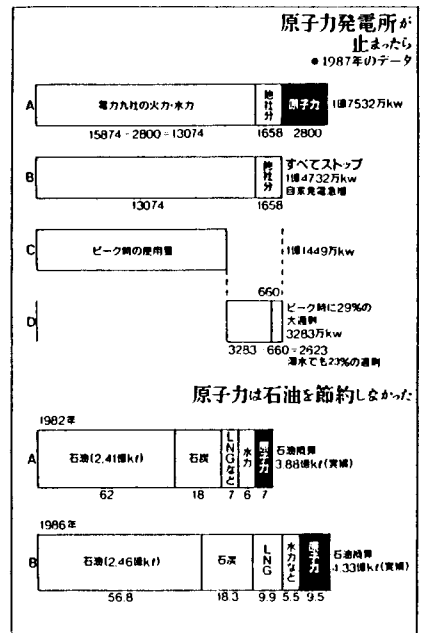
Q2：原子力発電は他の発電方法と比べて、本当に経済的なのでしょうか？

A2：原子力発電は、石油火力発電などに比べて割安なものとなっています。発電所の運転期間を通してみた耐用年別発電原価を比較すると水力が一キロワット時あたり一三円、石油火力が一円、石炭火力が一〇円であるのに対し、原子力は九円と確かに割安になっています（一九八八年のデータ）

また、石油や石炭の火力では価格が先行き不透明ですが、原子力発電の燃料であるウランは、為替レートなどの影響を受けにくいので、価格が比較的安定しています。ですから電気を安定して供給できるのです。

意見：「原子力発電は経済的ですよ。ですから原発を」という話があります。なぜそう言い切れるのか、この計算の背景を考えながら話を進めていきます。

この試算がはじめに行われたのはオイルショック直後でした。つまり石油の値段が高かった時です。原子力は経済的、というPRのためです。ですが、だんだん事情が変わってきます。石油が値下がりしてきたため、一九八八年には火力の方が原子力より安くなってしまったのです。そんな時、通



(広瀬 隆『新版・危険な話』より)

産省は従来の計算方法から「耐用年別発電原価」という計算方法に切り替えました。こうすると、耐用年数の長い原子力発電の原価は安くなりました。

結局、発電原価はちよつとした計算の差でいくらでも変わるものなのです。また、原子力には廃棄物処理費用や核燃料の再処理費用などのコストアップがあることを忘れてはいけません。

そしてもう一つ分かってほしいことがあります。たとえ今日本全土の原発を閉鎖しても、電気は不足しません。一九八七年のデータを見ますと、「火力」と「水力」を合わせた電力で、ピーク時の使用電力は十分間に合います（図を見て下さい）。ですから「原発が止まったら電気が足りなくなる」ということはありません。

ですが、ウランの価格が上がっても原子力発電は少ないウランで大きなエネルギーが出ることは確かですし、しばらく

は大丈夫と思われる石油の埋蔵量も、長い年月の後の不安があります。これから原子力発電をどうするか、ということは経済性だけで決められないことだけは確かでしょう。

※参考※

運転中の原発 三八基 建設中の原発 一二基
合計 五〇基 (平成二年七月現在)

Q3:それでは最後に、一番の問題である安全性についてお尋ねします。原発は本当に安全なのでしょうか。

A3:ひと言でいうと「ご心配には及びません」おおまかに五つの理由を次に挙げますと、

- (一)原子力発電所の燃料は、その内容が原子爆弾と違う。
- (二)異常や事故の発生を防止するのは勿論のこと、仮に生じたとしてもその拡大を防止するため何重もの工夫がしてある。
- (三)運転中に周辺の住民が受ける放射線の量は極力低く抑えられている。
- (四)現実には起こるとは考えられないような事態を想定した場合においても周辺の住民の安全が確保されるよう十分な距離が確保されている。
- (五)国が法令などによって厳重な監督をしている。

意見:まず(一)についてですが、原子力発電所の重大事故は、何も燃料が原子爆弾のように爆発して起こるわけではありません。炉心が高温になって融け出し、床を突き破って地中に沈んでい

く場合、もしくは水素ガスによる水素爆発や、その両方が起こる場合に大量の放射能が環境に放出され、大事故となるのです。こうして大気中に放出された放射能は放射能雲と呼ばれる状態で浮かんでいます。放射能雲は風によって移動し、放射性物質を地面に降らせます。ですから、風力や風向きに大きく影響されますが、広範囲に渡って汚染されます。チェルノブイリの事故でもほぼヨーロッパ全土が汚染されたのです。(四)のように、「安全が確保される十分な距離」とは一体どんなものなのでしょうか。(P34の地図参照)

また、(二)や(三)のように、安全を確保するための工夫はなされる内部はどうでしょうか。外部とは比べものにならない量の放射能が存在するのです。そして外部の安全のため、この中であらゆる作業を行うのが多くの下請労働者です。原子力発電は実に、彼らの存在によって保たれています。しかしこれらの作業のため、ガンや白血球、その他わけの分からない病気に苦しみ、ボロ雑巾のように捨てられたり、苦悶のうちに死んでいった労働者たちを見逃すわけにはいきません。ところが、この原発大国日本では行政はおろか、大労組すら実態調査を行っていない(一九八八年現在)という、あきれられるばかりの実態があります。(フォート・ジャーナリスト樋口健二氏の文章(『原発がとまった日』収録)より)

ところで、今、日本全国の原子炉は老朽化の時代に入っています。具体的には、原子炉の圧力容器にヒビ割れ、亀裂が入り、その欠陥部分を削りとって運転しているのです。つま

り、日に日に削られて薄くなり、設計基準を満たさない条件のまま運転に追い立てられています。その他、一次冷却材ポンプのボルトの亀裂、圧力調整弁の故障、冷却水漏れ、蒸気発生器の異常、細管の大量損傷等々、挙げていけばキリがありません。そのうえ、日本の本質的欠陥は地盤の弱さです。にもかかわらず日本で初の耐震テスト装置が完成した時には、すでに三〇余基の原子炉が運行中でした。つまり、本来、原子炉は建設基準法に定められた基準の三倍の地震に耐えうるものでなければなりません。現在の原子炉はそれに耐えられるかどうか分らないまま組み立てられ、使用されているのです。

さらに問題はそれだけではありません。高レベル廃棄物や廃炉の処理技術については、現在まだ確立していません。しかし、そうした廃棄物は、日に日に増え続けているのです。最後に(五)について、原子力発電に関して知っておいてほしい事があります。それは、国や電力会社の秘密主義です。事故があってもすぐに知らせず、下手をすれば真実も隠してしまします^{*2}。これは、人間よりも経済性を優先させた、原子力発電の許されざる事実です。

ここまで読んでまだ原発を推進していくべきでしょうか。まだ問題の多い原発に対して、あまりにも安全性が軽視されていると思えます。それではどうしていけばいいのでしょうか。まず、当然原子力発電所をこれ以上増やすべきではありません。それがどれだけ

危険かは、もう分かってもらえたと思います。さらに、現在運転中の原子炉の中でも、商業炉はなくしていくべきです。まだ問題の多い原子力発電とはいっても、石油に対する不安もあります。これからの研究のため、数基の実験炉を残す事は必要かもしれません。けれど、利益を追求するための商業炉はなくすべきです。そして最後に、原子力発電に関する問題は、日本だけの問題ではありません。世界の一大所です。事故が起これば、その被害は地球規模のものとなります。従ってこれは、地球規模で解決を進めていかなければならない、重要な問題なのです。

原子力発電に関する話は以上です。ところで、ここでもう少し根本的な事を考えてみて下さい。ここまでの話は、あくまでこのまま現在の高エネルギー社会を發展させていくことを前提に書かれています。けれど、皆が少しずつせいたくを控えて、低エネルギー社会になるよう努力していけば、原子力発電の必要などなくなるのです。多少生活は不便でも、安全で健康な暮らしを営むか、危険を抱え込んでまで便利な生活を続けるか、どちらがいいと思えますか。

〈ちょっと一言〉

「原子力発電はCO₂をあまり出さないのです、温暖化の防止などにも役立つ、クリーンなエネルギーです。」——こんな言葉を聞いた事がありませんか。原子力発電に賛成する人は、よくこの意見を出します。では実際、原発は地球の温暖化防止に貢献しているのでしょうか。答えは「NO」と言えるのでしょうか。温暖化を引き起こす原因の一つとなっているのはCO₂です。これが現在の人

類の生活において、あまりにも多量に放出されているのです。しかし、温暖化というのには、森林の乱伐などさまざまな要素がからみ合って、複雑な構造になっています。だから仮に、現在の火力発電所の半分を原子力発電所に代えたとしても、温暖化のスピードを一〇%も減らすことができないのです。したがって、原子力発電を増やす事よりも、自動車の排ガスや工場から出るガスなど、その他、私たちの生活を変革していかなければ、温暖化の問題は解決できないのです。(この問題は非常に複雑で、与えられた紙面では、十分に扱いきれませんが、詳しくは、ぜひ原子力資料情報室発行の『原発は地球を救わない——地球温暖化問題と原発——』をお読み下さい)

*1 法定耐用年数(水力40年、原子力16年、火力15年) いったいまで稼働したと仮定したときの平均発電原価



*2 その例として、一九八七年一〇月一日、福井県で起こった敦賀原発一号機の事故が挙げられます。この時、敦賀の市民が

データを出すように問い詰めたところ、二ヶ月後によりやく敦賀市が出してきたのが、墨で真っ黒に塗りつぶされたデータ集だったので。これは一部どころか、真ん中からちょうど大事な添付資料がすべて墨で塗りつぶされていました。

(広瀬隆『眠れない話』より)

参考文献

「東京に原発を!」「眠れない話」

広瀬 隆

「原発がとまった日」

広瀬 隆 編

「原発事故 その時あなたはどうするか?」

日本科学者会議福岡支部核問題研究委員会編

「原発大論争!」

別冊宝島

「90原子力発電——その必要性と安全性——」

通商産業省 資源エネルギー庁公益事業部編

自転車発電

人間は、自分の力でどれくらい発電が可能なのだろうか、という疑問が生じたのがきっかけで、計画を立ててやり始めたことがこの自転車発電です。

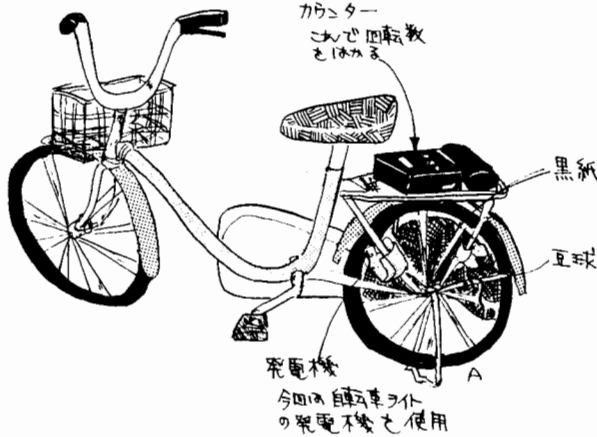
しかし、当方の不手際のため決行日が遅れた上に、一月十一日の測定値は、機器不備のため大幅な誤差が生じて使いものにならなくなりました。それを深くおわびします。それから、この計画に多大な協力をして下さった物理科の先生方、理化学研究部の方々、測定に協力して自転車に乗って下さった

方、本当にありがとうございます。心から感謝します。

測定は一月十一日・十二日に、図のような粗大ゴミ同然の自転車の後ろに機器を付けて、大阪城の並木で一分間走ってもらって行われました。そして、自転車のタイヤの回転数を

20センチの自転車

「こんな自転車じゃほんとにこげるか」と思ったよ、ごめんない。



出し、その後、いろいろな計算をして発電量を出す、という方法で行いました。詳しい結果は下の表を見て下さい。

所属部	学年	性別	時速(km/時)	電力(W)
卓球部 (K氏)	2	男	26	3.1
漫研部 (H氏)	2	女	21	2.4
漫研部 (M氏)	1	女	20	2.3
理研部 (H氏)	2	男	25	3.0
理研部 (T氏)	2	男	25	3.0
帰宅部 (S氏)	1	女	17	2.0
SPRING代表 (H氏)	2	女	22	2.5
先生方代表 (S氏)	—	男	39	4.5

自転車発電測定結果表

電化製品	消費電力 (W)
テレビ (14型)	53
ファミコン	6
CDラジカセ	20 ☆
パソコン (S社)	38 ☆
電灯 (吊型)	62 ☆
テーブルライト	20
ヒーター	800
ドライヤー	800

電気製品の消費電力例

〔参考〕

電灯をつけてCDを聴きながらパソコンを打つとして(表の☆印分)、これを一時間続けるには約四〇時間、時速二五kmで走り続けなければならぬ。

この測定結果の率直な

感想は、「やっぱり人間の力でつくれる電気なんてたかがしれているな。」ということ。しかし、測定に参加した人はわかると思いますが、一分間とはいっても相当疲れます。こういうことをふまえた上で一つの電気製品を動かすのにどれ程の電力が必要なのか考えてみると、今まで湯水のように使ってきた電気がいかに尊いものかわかってもらえると思います。

何だか電力会社の宣伝のようになってしまいました。これを読んで少しでも使い方を改善して下さるとうれしく思います。よく見ると家でも学校でも無駄な電気がたくさん使われていることに気付くはず。そうは思わないと言う人は、試しに「参考」に書かれている電力をつくってみたらいかがでしょうか。簡単です。自転車のライトをつけて時速二五kmで四〇時間走るだけなのです。

注 今回のものは自転車の発電機を利用した発電能力ですが、人間の力をすべて発電に利用すれば少なくともこの数倍以上の電力をつくるのが可能だと思われま。

期待したいこんなエネルギー

今、現在あるエネルギーだけでこれから私達は快適に暮らしているのでしょうか。そこでは次のようなエネルギーについて書くことにします。

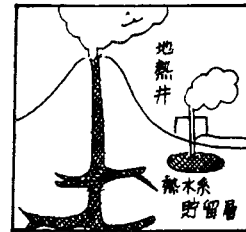
太陽エネルギー

これは、現在人々が、21世紀に向けて最も期待しているエネルギーと言ってもよいでしょう。地球に降り注ぐ1時間分の太陽エネルギーは、世界中で使うエネルギーの2年分に匹敵するほど大きなものです。太陽エネルギーの特徴としては、環境汚染の心配がなく、太陽がある限り永久に利用できる。などいろいろな長所がありますが、その反面、夜間や雨の日にはほとんど利用できない、エネルギー密度が1㎡当たり1kwと低い、という欠点もあります。現在、このエネルギーの代表的な例が、太陽電池です。これは、時計などの小電力ですむ民生機器や、人工衛星、無人灯台、無線中継局などの特殊用電源として、既に利用されています。しかし、製造コストが高いため、実用化にはコストダウンが必要とされています。もし、実用化されたなら、今私達がかかえている多くの環境問題の解決法の一つになることと思います。

地熱エネルギー

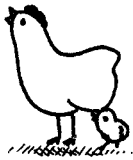
火山国のわが国では、地熱エネルギーは地下の熱水を利用するため原料が豊富にある純国産のエネルギーです。地熱発電は、地下の

熱水の蒸気でタービン発電機を回し発電しますが、これは火力発電のボイラーの役目を地球がしているというわけです。このため燃料費はいらず、安価で安定したエネルギーを得ることが出来ます。これだけの良いことがあるのだからもっと使えばよいのにと安直に思ってしまうですが、これも多くの問題点があります。例えば、火山地帯に限られるため、適した土地を調査するのに多額の費用や長い期間がかかること、大出力の発電所が作りにくいことなどさまざまあります。今後開発が進めば進むほど期待される新エネルギーです。



〔バイオマスエネルギー〕

こういうエネルギーがあるとは全く知りませんでした。これは植物や動物が生成・排出する有機物から得られるエネルギーの呼び名です。バイオマスエネルギーの利用形態は、動物の糞などを直接燃焼させて熱を得るほかに、発酵や熱分解によってアルコールやガスを発生させて利用する方法などです。興味を持ったのは、利用価値のなくなったと思って捨てられるものを利用してエネルギーが生み出されることです。すでにブラジルなどでは、バイオマスから得られたアルコールを自動車燃料に利用することなどが進められています。



〔核融合〕

簡単に説明すれば、二個の水素の同位体を融合させて一個のヘリウム原子にしてその時発生するエネルギーを利用する方法です。今の段階では、核融合に必要な高温・高圧の状態を保つのが難しいこと、などという非常に多くの問題をかかえています。しかし、これが完成すれば、膨大なエネルギーを得ることができ、私達はエネルギー問題に悩まされることもなくなるはずで、実用化は21世紀、それよりもずっと先になるでしょう。

(エネルギー教育情報センター発行 エネルギー近^{オシロウ}困惑^{カン} 引用)

今回私達はいろいろと書いてきましたが、一番大事なのは、一人の心がけではないかと感じました。

人は知らず知らずのうちに多くのものを浪費しています。もちろんエネルギーもこれに入ります。現在私達は、異常なほど多くの電力を消費しています。しかし、このうち本当に必要な電力はもっと少ないのではないのでしょうか。今のような状態がこれからさき永遠に続くはずはありません。そのため、新しいエネルギーの開発が進んでいます。確かに、これも大事なことです。私達は最も大事なことを忘れていきます。自分の身の回りをしっかりとみつめ考えてみてください。どれだけ多くのエネルギーが無駄に使われているのでしょうか。これをなくせば、エネルギーに余裕ができ、未完成のものを使う必要もなくなるのではないのでしょうか。

エネルギーは限りあるものです。そのことをわかってもらえることを私達は期待します。

先生紹介

・森本 敏史 教頭先生

①先生になられて何年になるでしょうか。

今年で31年目になります。

②先生にならうと思われたきっかけは？

高校のときの先生の影響とします。授業もすばらしかったのですが、誠実で潔癖な生き方に深い感銘を受け、世界史の先生となりました。

③先生になられてからとくに心に残った出来事、エピソードは？

十数年も前のことですが、作品展示（写真）の合評会で、ある生徒の作品を賞賛したことがありました。彼はこれを機に写真にうちこみ、卒業後も専門の道を選び、今も立派に活躍しています。ちょっとした一言が、その人の人生を決することもある先生という職業に身のひきしまる思いをすることがあります。

④特技、趣味は何でしょうか。

写真を趣味としています。殊に落日の風景を好みます。刻々変貌する自然のドラマに、いつも心がうち震えます。

⑤座右の銘を、もしなければ何か一言。

“恕”という一文字です。孔子の「論語」にあります。相手の立場に立って考えるという意味です。

⑥今の大手前生について、どう思い、また何を望まれますか。

「ごみを拾う勇氣」を持ってほしい。気のすすまないこと、

いやなことを敢えてやろうとすれば勇氣が必要ですが、そういう努力こそが人をより高めるのだと思います。学力を高めることの基本もそこにあると確信しています。

・彼谷 利彬 先生（社会科）

①先生になられて何年になるでしょうか。

18年です。

②先生にならうと思われたきっかけは？

おはすかしい話ですが、典型的な「でもしか」先生です。

③先生になられてからとくに心に残った出来事、エピソードは？

初心（？）のまま今日まで来たのか、これといったことがなく、書くことがありません。申しわけない。

④特技、趣味は何でしょうか。

好奇心は旺盛な方ですが、実態は無芸無趣味に近いです。何か捜せば、山登り（登山というほどではありません）が好きです。

⑤座右の銘を、もしなければ何か一言。

「なんとかなるさ」「くよくよするな」と思うように努力しています。

⑥今の大手前生について、どう思い、また何を望まれますか。

もったのびのびしてほしいですね。そして社会や学校が作っているワクを超えてほしいと思います。学校や大人をあわせてせせきや若者ではないのではありませんか。君達の大胆さとひたむきな姿勢が、私達大人に自分の姿をふり返させる鏡なのですから…。もう一点、学ぶことに謙虚であってほしいですね。

Let's study together.

・島田 郁夫 先生（社会科）

①先生になられて何年になるでしょうか。

現在、13年目です。

②先生になろうと思われたきっかけは？

子どもの頃から歴史が好きだったことと、高校時代に強烈な印象の残る歴史の先生と出会ったことがきっかけになったと思います。

③先生になられてからとくに心に残った出来事、エピソードは？

教師になって以来、心に残るような出来事には毎年出会うのですが、そのなかでも教師になって初めて勤めた定時制高校で自分よりも年上の生徒や同じ年の生徒を相手に授業したことが懐かしく思われます。

④特技、趣味は何でしょうか。

趣味と実益（仕事）を兼ねてますが、歴史書を読んだり、史跡を巡り歩いたりすることが大好きです。

⑤座右の銘を、もしなければ何か一言。

聖書の中にある言葉ですが、「真理はあなたがたに自由を得させるであろう」。

⑥今の大手前生について、どう思い、また何を望まれますか。

全体としては真面目でおとなしいという印象を持ちました。もっと覇気があっても良いのではないかと思えます。しかし、一人一人の生徒はそれぞれに良い面を持っているようなので、今後の成長が楽しみです。

・渡辺 謙一 先生（社会科）

①先生になられて何年になるでしょうか。

15年目に入ったところです。

②先生になろうと思われたきっかけは？

きっかけは定かではない。高三のとき「僕にもできるかな」ともかく思い定めたのです。それでも大学で一度断念し、社会人になって再び思い起こしての現在です。必ずしもストリートにはいかないものです。

③先生になられてからとくに心に残った出来事、エピソードは？

教師になって最初の年は新鮮で色々面白いことがありました。その一つ。秋の文化祭の終わった夜、突然、数人の生徒が我が家へおしかけた。新婚のアパート住まいが襲撃を受けたのです。禁止のはずの生徒等の“打ち上げ”の勢いでした。座りきれないせまい部屋は一杯になって大さわぎ。おこるにおこれず、門限を越えた生徒のため親に電話して代わりに謝ったり、大変でした。わりと早く退散してくれたのですが。

翌日の事です。一人の生徒が日暮れ時、我が家のドアを叩きました。「昨日私は欠席しててクラスの皆は来たのに私は来れなかった。悔しいから今日来た！」とって手に下げていたフライドチキンの紙箱を差し出したのです。

④特技、趣味は何でしょうか。

登山に連れていってもらったり（一人ではこわい）、本を読みあさるとか（趣味といえるかな？）。昔はグループで漫画を書いて雑誌を作ったり、音楽ではジャズを良く聞いたりしてましたが…。特技なし。

⑤ 座右の銘を、もしなければ何か一言

“疲れたら休めばいいのであり休んだらまた戦えばいいのだ”
 というような言葉がどこかにありました。きつい気持ちにふ
 わつと軟着陸するような言葉でした。

⑥ 今の大手前生について、どう思い、また何を望まれますか。

想像より意外と“庶民的だな”という感じを持ちました。素
 直な下町風の匂いがしてこれは好きだよという感想です。この
 延長で欲を申せば、もっと潑刺はつらつと活気を出しても良いのではな
 いでしょうか。

・清水 智子 先生（英語科）

① 先生になられて何年になるでしょうか。

15年。

② 先生になろうと思われたきっかけは？

スローテンポな私がじっくりと取り組める仕事だと思っ
 たら。

③ 先生になられてからとくに心に残った出来事、エピソードは？

いろいろありますが、最近の思い出は前任校で卒業式の日
 担任していたクラスの生徒から大きなきれいな花束と歌のプレ
 ゼントをもらったことです。皆の気持ちがうれしかった。

④ 特技、趣味は何でしょうか。

特技↓居眠り 趣味↓読書

⑤ 座右の銘を、もしなければ何か一言。

継続は力なり、という言葉が好きです。

⑥ 今の大手前生について、どう思い、また何を望まれますか。

教師として何が一番の幸せかといえ、自分の授業を聞いて
 くれる生徒がいるということ。そういう意味で私は今、
 とっても満たされた気持ちです。私の授業内容がスムーズに皆の
 頭の中に入っていきつてくれているといいのですが。

Mr. Takeaki Kusunose (English faculty)

1. How many years have you been teaching English?

I have been teaching English almost 15 years.

2. Why did you think you would become a teacher?

I thought I would have a lot of time to think over
 everything in the world. Also I wanted to learn English
 more.

3. What is your most unforgettable episode?

Once I gave back the examination papers to students
 without writing down their scores.

4. What are your hobbies?

Tennis is my favorite sport. I like playing go very much,
 not golf.

5. What is your motto?

Practice makes perfect.

6. What do you think of the students of Ohtemae, and what
 do you want us to do?

I would like you to always do your best, since Ohtemae
 is an ideal school for you.

詩②

氷の上で

希遊

「何が望みだ！」
悪魔が私に問いかける
私は——無言

「何でも叶えてやるゾ」

……まだ話せない
渴ききった喉は

そう 簡単には

私の口を開けさせない

堪り兼ねた悪魔は勃然とする

「変な奴だ

人を呼びだしといて

何も言わない

こんなチャンスは

もう ないんだゾ」

私は 寒さで

手足が震えるのを

がまんしているだけ

「もう これ以上

待てないゾ！

お前の足もとを見ろ」

いつのまにか

私の足もとのすぐ近くに

小さな穴がある

白く輝く氷の上の

一点の『黒』

「その中に

お前の欲する物が

入っている

何でも 好きなだけ

とればいい

俺はかえる！」

はきすてるようにそらいうと

悪魔は不愉快そうに

消えていった

私は穴を見た

深く小さい「黒」

——もし 本当に

自分の望む「もの」があるなら

私は 手をのばすだろう

けれど

それが 私の想像するよりも

大きかったら……？

私を支えるこの氷を

割ってしまったら……！！

悪魔の血塊のような目に映る

私の心の中は

かすかに——にごっていた

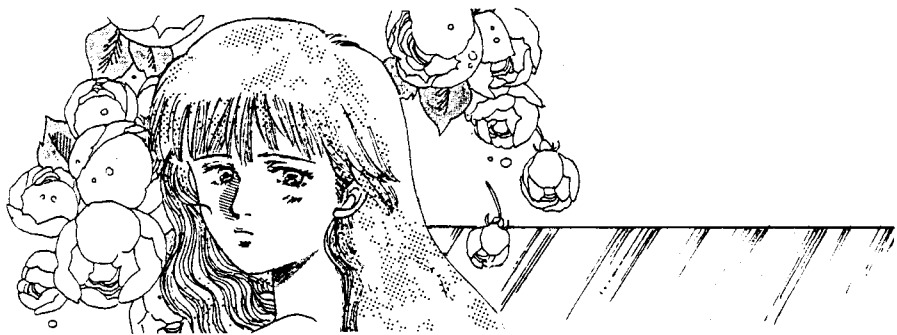
私は

美しく光る氷の上で

黒い穴を見つめながら

どうすることもできずに

啜り泣いた



くいはく…

山の想ひ出

一九九〇年春・夏

理科 寺本義男

わが半生の喜びの最高のものの一つは、山岳部（本校では登山部）の諸君等と山で過ごした日々にあった。以下に示すのは、昨年の山行の記録の一部を短歌の形にまとめたものである。

朝起きてご飯を食べて靴履いて鞆を提げて学校へ行く

といった無意味な字句の羅列に墮しているというお叱りもあるが、努力してせめて万葉集巻三にある

玉藻刈る敏馬を過ぎて夏草の野島の崎に舟近づきぬ

に見習いたいものと思っている。

大峰山系登山（一九九〇年五月三日、四日）

阿倍野橋―下市口―川合…狼平（泊）…弥山…一の峠…天が瀬
―大和上市―阿倍野橋

朝四時のうすら明るむ東は曇りてあれど雨雲を見ず

五時過ぎの初発電車に家族連れ目指すは花の万博と見ゆ

四連休前半二日大峰の山の息吹に浸らむとすも

近鉄の阿倍野の駅に一人の山伏行者鈴鳴らし過ぐ

風邪引きの癒えて数日用心に咽喉の葉の飴を口にす

バス行くは洞川ならず何時よりか洞川温泉となりにしを知る

大峰へ広橋峠笠木峠二つの峠越えて入りゆく

梅若葉緑滴る峠路ゆ見放くる金剛葛城の峰

大峰の水を集めてたぎれるを眼の下にして吊橋を越す

馬鹿尾根と呼ぶ人のあり川合より狼平へ続く尾根路

尾根路に取り付くとして階段をなせる登りに息を弾ます

曇り日の山路なれどもひとところ紫淡くスミレ群れ咲く

路の辺に見出でし花に名のあるをその名覚えぬことの悔やまる

いとせめて覚えぬ花の色形心留めむに道の急がる

尾根路の見晴らしに立ちて望めども稲村ヶ岳雲に隠るる

この辺りすでに海拔五千尺木々の梢は芽吹かざるまま

ブナの樹の梢煙らひ見上ぐれば昏き空より雨降り出でぬ

雨にして無人の小屋の狭けれどテントに替へて宿とするかも

夜もすがら雨打つ音とせせらぎを聞き惑ひつつうつらうつらに

起き出でし人の声して小屋の戸の隙間明るむ夜は明けぬらし

倒木を覆へる苔の厚くして色鮮やかに雨に潤ふ

大峰の山深ければ春たけて雪残の見ゆ僅かなれども

情けなく降りくる雨か雨宿り弥山の小屋にしばし憩へり

濡れし笹覆へる山路分け行けばさながら水の中行くがごと

雨にして下るも苦し置く足に濡れたる岩の滑りがちなる

一の峠の破れし小屋に雨風を辛くも避けて昼食をとる

無残にも径断ち切られ崖となる林道工事の無責任ぶり

辛うじて下るを得たる林道にまた騙されて山径を下る
 カモシカの落とせし角を見出せし子等の驚き見て我もまた
 予定せし帰りのバスの最終の時刻迫るを気にしつつゆく
 垂れこめて木立の陰の昏けれど眼に鮮やけくシャガの花咲く
 若きらは遙か先行き影見えず追はむとすれど脚の進まず
 ひた濡れし衣類着替ふる暇もなく濡れしがままにバスに乗り込む
 青き眼の登山者二人バス降りて雨の大峰目指しゆきけり
 上市に電車待つ間を駅前の飯屋に入りて饅飴をとりぬ
 暖かき饅飴は雨に濡れし身に沁みわたるごと内より満ちぬ
 雨の日をよくぞ歩みし我が脚を労り擦る湯槽の中に
 幾そたび共に山路を歩みたる我には旧き一枚の地図

鈴鹿山系登山（一九九〇年七月三一日〜八月二日）

上本町―菰野―朝明ヒュッテ：庵座滝：釈迦ヶ岳：中峠
 （泊）：西行原：天狗滝（泊）：ヒロ沢出合：ハト峰：朝明
 ヒュッテ：湯の山温泉―上本町

谷九の地下道ゆけば我が負へるザックに「大変ですな」の声あり
 近鉄の湯の山線の菰野駅小さきバスの停まりてあたり
 我々が乗らねば全くガラガラのバスは朝明の谷登りゆく
 朝明のヒュッテに着けば夏なれや子連れの客の影もちらほら
 釈迦岳に連なる尾根を高く見て庵座の谷の急坂を行く
 そよと吹く風もがもなと谷道をひた登りゆく汗にまみれて
 ひた落とす庵座の滝の音響く沢に降り立ち先づ汗拭ふ

差し入れの西瓜は重しここまでは待ち来れども遂に裂かれぬ
 沢に舞ふ蜻蛉の一つ我が持てる西瓜の赤き汁に止まりぬ
 轟きて水ひた落とす岩壁は夏の日射しに白く輝く
 径沿ひの流れの水の遂に絶えて崩れしガレの道とはなりぬ
 尾根に着きて吹き渡る風涼しきと心虚ろに吹かれてありぬ
 釈迦岳は見晴らしのなき山にして休む事なく過ぎゆきにけり
 笹原の笹分けゆきて笹の香に酔ひて思へりこれが鈴鹿ぞ
 山径の背よりも高き笹原は分けゆくよりも滑るが易し
 笹道の笹に手足のかすり傷半袖半ズボンのスタイルを悔ゆ
 テント張る平地なければ斜めなる地はそのままに傾けて張る
 小夜更けてテントの周り霧だめて照らす光の帯がうごめく
 中峠下ると径は露に濡れ目覚めの浅き足を滑らす
 分岐路に道を求めて立ち止まる足もとに咲く水引草の花
 降り立ちて琵琶湖に注ぐ愛知川の源流ぞこれ水の清けき
 素麺を湯掻きしあとの濁り汁せめては魚の餌となれかし
 陽の射せば光の揺るる水底に小さき魚の岩に群れゐる
 淵をなす真青の水に身を浸し泳げば我も魚にかも似る
 夕暮れて淵のあなたの岩陰に細々として河鹿鳴き始む
 暮れてなほ陽の温もりを保ちゐる岩に腰かけ夕食をとる
 我等はか人無き峽に宿りすと燃え上がる火を囲むひととき
 山峡の空狭けれど見上ぐれば牽牛織女の輝きてあり
 川の瀬の遠く近くを鳴き交はす河鹿の声を聞き明かしつつ
 兩岸の壁なす淵の奥にして天狗滝とふ幅広き滝
 水さやく響きを耳に高巻きの径に繋がる岩場を攀じる
 やうやくに悪場を過ぎてヒロ沢を登ればやがてハト峰に着く

頂を吹き渡る風に思へらく鈴鹿の山は涼やかなの山
 頂に憩ひありとふゲーテの詩くちさまるる静かなる刻
 山稜のかたへなだらかに傾きて水を湛へし湿原の見ゆ
 読み返す案内書にこの湿原はマムシの棲むといへる記事あり
 これよりは迷ふことなき広き道足軽やかに歩を運びつつ
 朝明より湯の山までを東海道自然歩道といふ道を行く
 瀬を渡り淵をへつりて幾度か流れに漬きし脚をねぎらふ



サムサノナツハオロオロアルキ

国語科 吉澤久良

ある小説の登場人物のひとことや詩の一節などが妙に心に残り、そして、そのことばの意味が年を重ねるにしたがって深まってゆく。そういうことは多くの人の経験するところだろう。私自身について考えてみると、宮澤賢治の詩「雨ニモ負ケズ」が思いうかぶ。この有名な詩に次の二行がある。

ヒデリノトキハナミダヲナガシ
 サムサノナツハオロオロアルキ

この詩は賢治の晩年の闘病生活の中で書かれた（当時三十五才。賢治は三十七才で没）。私がこの詩を初めて読んだといえるのは大学生の時だったが、その時まず疑問に思ったことがあった。それは以下のような疑問だった。農業技術者、肥料設計者でもあった賢治が、「ヒデリノトキ」や「サムサノナツ」には、ただ単に「ナミダヲナガシ」たり「オロオロアル」いたりしただけではなかったはずだ。むしろ、被害を最小限にいとめるために、水運その他の考えうる限りの現実的な努力を重ねたはずである。さらには、稲の品種改良、新しい肥料の研究などにも手をつけたに違いない。それなのに、賢治はそういう自分の営為を一切否定するかのようになり、自身身の姿をこのようなものとして表現している。悲惨な状況にあった

者の苦しみや悲しみを強調したかったのか。賢治は潔癖すぎるほどの完全主義者だったのか。闘病生活の中で精神的にまいっていたのか。その答えはいまだによくわからない。しかし、少なくとも賢治は自分の仕事の意味、人生の意味を喪失したのだ、と私は思った。そして、この二行に虚無的なひびきと透明な悲哀とを感じた。そのイメージはやりきれなく、危険で、またそうであるが故にひどく魅惑的でもあった。

ここで話が急にかわって申しわけないが、おまけに私事でさらに申しわけないが、私は大学を卒業してから一年間一般企業に勤めていた。その後会社をやめ、教師になった。転職の理由はいろいろあるけれども、最も大きな理由は、その仕事の中の自分が「さしかえのきかない存在」ではないと思えたことだった。就職して半年ぐらいしてからだったと思う。自分のかわりにある機械がそこに置かれていたとしても仕事に支障が出ないのではないか、という思いがだんだん強くなってきた。仕事上の目標の数字も、その部署に自分がいなくてもこなせるのではないかと思えてきた。(余談になるが普通、企業における仕事の評価は数字で表現できる。情熱も汗も能力も、契約件数や売上げ高や利益率などの客観的な数字という結果として出てくる。もちろんその数字はあくまでも仕事の評価であって、その人の人間的な価値とはおのずから別のものであり、また、出てきた数字の読み方もいろいろあるだろう。がただここでついでに言っておくと、そういう「結果がすべてだ」という明解さには、ぐちゃぐちゃいわけの入りこむ余地がなくて、私はその点は好きだった。)要するに、自分が必要とされているんだという確信が持てなかったということだろう。「誰でもできる仕事であるがたまたま私

がしている仕事」をしていると思うと、自分がちょっとかわいそうになって。そして、「さしかえのきかない存在」でいられる仕事をと思い教師になった。ところがどうやら自分の能力に対する大きな誤解があったらしい。最初の赴任校へ行き、自分の無力さをいやというほど味わった。早い話が教師として何もできないのである。その学校では、多くの退学者、留年者が出た。ただし、自分が無力だと感じたのは、退学者、留年者の数が多かったからではない。自分が関わった任意のある一人の生徒の退学までの経緯の中で、結局は何もしてやれなかったということを感じたためだった。手をこまねていたわけではなく、考えつく範囲のことはしたと自分では思う。しかし、生徒は退学後の人生に希望や展望を持ってないまま学校を去っていく。成就されない可能性が失われていくのをみすみす見ていなければならぬ。「さしかえのきかない存在」どころか、私には自分はいてもいなくても同じようなものなんだという思いが強かった。あたりまえのことではあるが、その生徒の持つ重荷や困難を肩代わりしてやることなどできるはずがない。そのあたりまえに直面するまで、うかつにも私はその重さも苦しさもよくは知ってはいなかった。今思うのは、自分が教師としてできることは、あくまでも傍観者として、喜び、悲しみ、励まし、祈ることだろうということだ。私にとつての誠実さは、同じ傍観者であっても、できるだけ生徒の近くに立った傍観者でいようということしかない。そしてそういう生徒との距離感はどうな学校でも基本的には同じことだろう。

ここで話が急に戻って申しわけないが、例の「ヒデリノトキハ」の二行である。教師としての自分も「ナミダヲナガシ」たり「オロ

「オロアル」いたりしただけだったなあと思う。学生の時はあの二行に虚無と悲哀を感じたけれど、今は少し違う。そんなもんなんだろうなあと思ってしまふ。一人一人の人間は小さくて、たいした力も持っていない。でも、だからといって卑下したり、絶望したりすることもないんじゃないか。「オロオロアル」くことしかできない人生にどんな意味を見つめるかではなく、「オロオロアル」くことしかできないなら、意味などなくてもそれを受け入れなければしかなない。生きるこの意味より先に、まず生きているという現実がある。しかも、この現実はなかなかしぶとい。私達はヒーローにはなれず、日々の生活のつまらぬ物事に追われて暮らしているが、そんなつまらぬ物事やささいなことこそが私達の人生をつくっているのだらう。そう思うと多少ほろ苦くはあるのだが。でも、そんなありきたりで、平凡で、ささやかな自分の人生がいとおいしいと思う。一生懸命「オロオロアル」いている人間の小ささもまた、いじらしい。

「雨ニモ負ケズ」という作品そのものは、詩としての完成度があり高くはないが、あの二行だけは美しい。人の生の真実がそこにあるからだらう。とらえ方こそ学生時代とはだいぶかわったけれど、真実があるという印象は今もかわらない。私の理解のしかたが正しいかどうか知らないが、とにかく今は私はあの二行をこんなふうに読んでいる。ひよっとすると、そこに自分に対する憐憫と苦笑が少しは混じっているかもしれないが。

心の原風景

社会科 矢野 優

一年生二学期の『現代社会』では、青年心理の学習をする。青年期のもつ心理学的特性や問題を考える授業であるが、この授業には二つの困難がある。一つは、青年期のただ中にある人たちの心の中に踏み込んでいかなければならない困難である。私自身、どうもそうしたことが苦手なのである。というのも、自分自身が生徒諸君の立場なら、きっと反発するに違いないからである。確かに、青年期には青年期独自の心理や行動がある。それが分っているだけに、授業の中で自分の心の中を見透かされた上に、自分だけの心の問題を青年の心理一般として希釈されてしまうことに反発を感じるのだと思う。二つ目の困難は、私が若者の心の問題をよく理解しているかのように思われてしまうことである。無論、そんな才能が自分になんか分っているだけに、厄介なのである。むしろ、私は授業の中で自分を振り返り、自身の体験を思いながら、いまの自分を考えているというのが真実なのである。人にはさまざまな生い立ちがあり、生活がある。それは大人も青年も同じである。そして、その歳月の重さに差異はあっても、それぞれの生を生きて来たという事実には変りはない。私は、その事実を心を動かされるだけなのである。だから、若者の一人一人の心に何が棲み、その目は何を見ようとしているのかを知りたいと思うことはあっても、心の奥底まで覗き込もうとは思わないし、ましてや心の動きを理解できる力を自分が持っているなどは決して思わないのである。

さて、自分の授業周辺の話はこれくらいにしておいて、本題に入ろう。私はさきほど「自身の体験を思いながら」と書いた。私は授業中によく自分の体験を語る。そのほとんどは、平凡な人間の平凡な体験だけれど、中にはいまの私に大きな影響を与えたと思える体験もある。そうした人格の形成に多大の影響を与えた体験は、「原体験」と呼ばれる。しかし、それほど決定的な体験というのはいまの人格を形成していく、というのが大多数の場合ではないだろうか。その意味では、「原体験」というよりも、もっと漫然とした「心の風景」のようなものが、誰の心の内にもあるのだと私は思っている。そこで今回は、私の「心の風景」らしきものを語ってみようと思う。

私は、一才のとき母を亡くした。従って、母の顔を全く知らない。三才になった時、父が現在の母と再婚するまでの間に母方の祖母が私に与えた影響は、記憶がはっきりしないだけに大きかったように思える。そんな中で、祖母と二人で出かけた日のことを思い出す。祖母は、帰り際に一寸いたずらをしてみたのだらう、電柱の陰に隠れたのである。そのほんの一瞬の恐怖とも絶望ともつかない寂寥感を、私はいまも昨日のことのように覚えている。それから次に思い出すのは、四才頃のことである。私が道端に落ちていくビンの欠けらを拾おうとしたとき、ガラスの先端を掴んだその手を踏まれ、小指の付け根から手のひらにかけてブラリと垂れ下るほどのケガをした時、私を負って懸命に病院へ走ってくれた義母の背中を、妙に懐しく思うときがある。それから小学校くらいまでは、印象に残るような思い出はない。次に思い出す情景は、父が勤めを

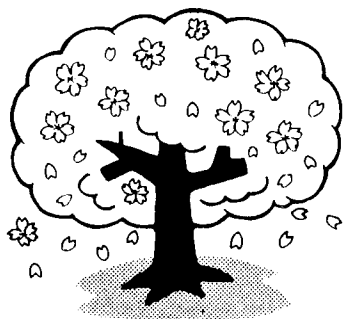
辞めて事業を起こし、それにも失敗して転居を余儀なくされた頃の何となくカサカサしたような家の雰囲気である。そんな頃の或る日、父に連れられて革新系議員の立ち合い演説会に行ったことがあった。小学校低学年の子どもには、その激しい口調が妙に恐しくて、人々の拍手や激励の声までもが殺気立っているように思えて、父にじっと寄り添っていたことを憶えている。風の強い、冬の夜だったように思う。そして、中学生になるまでは、平凡な沢山の思い出が連なっている。次に強く心に残っている出来事は、中学入学当初のことである。誰もがお互いを探り合い、友人とそうでない者を見分けようとしていた頃、久しぶりに大きな喧嘩をしたのである。原因は思い出さないほどの些細なことだったと思えるが、ただ私がした喧嘩の中では稀にみる激しいもので、相手も私も大怪我をし、担任だけでなく校長からも大目玉を食った。その時の喧嘩相手の腕白坊主の姿に悲しそうだ顔を、何かの拍子にふっと思い出すことがある……そして、中学三年になった。

私は、母を早く亡くしたためか、小さい頃から病弱だった。そのため、父は何かにつけて健康のことを口にした。運動することが生活の大部分を占めるような育てられ方をしたのも、そのためであった。おかげで、中学生まで、走ることにかけては人に負けることはなかった。ところが、短距離では勝てるのだけれど、長距離ではどうしても勝てない奴が現われたのである。無理なトレーニングが続くことになった。そして、とうとう熱を出して倒れてしまったのである。思えばそれ以前から「しんどい」が口癖になっていったようであった。微熱が続く毎日だった。担任が精密検査を受けるように勧められて、その結果、胸にピンポン玉より少し小さい穴が空いて

いることが分ったのは、中学三年の、夏の始まりを思わせる暑い日のことであつた。担任の口から病名を知らされた義母の顔が、何とも言えず苦痛に歪んだのを他人事のように眺めていたことを鮮明に覚えてゐる。この療養生活の中で、私ははじめて読書らしい読書をする事になつたが、それについては八十八年の図書館報『ゴギト』に書いておいた。ともかく、二年余の療養生活が始まつたのであるが、この歳月は私にとって決定的な出来事となつた。それは、療養所に入つて二年目の春のはじめの頃であつた。夜中近く、變に寝苦しくてトイレに行こうと廊下を歩いてゐた時のことである。胸の辺りがほの熱くなつて、急に咳が出始めたのである。「ゴボ」というような感じの咳であつた。妙な予感がした。口に当てた手に生温いものを感じた。血であつた。トイレ近くの洗面所へ急いだ。咳は止まらず、洗面器に血を吐き続けた。口の中は生臭く、カガミに映つた顔は凄惨であつた、その後、私のとつた行動は不思議と冷静であつた。パジャマに付いた血を洗い、口を漱ぎ、トイレに行つてから静かにベットへ戻つたのである。ただ、意識は懸命に〈死〉を見据えていたように思う。事は、それだけであつた。しかし、私の中で何かが変化したことだけは確かであつた。その変化が、遠い過去の、しかしその時々には鮮烈であつた出来事やそれ以後の多くの事柄をも包み込んで、いまの私を作つてきたのだと思う。

授業の中で、青年の心理や思想家の言葉を語るとき、生徒諸君の生活や人生に自分のそれを重ねてみる。そうしないと、私の中で心理や思想が生きてこないのである。むろん、人にはそれぞれの人生や生活があり、それに自分のそれを重ね合わせてみることなど、意味のないことかも知れないけれど、なぜか私はそうするのである。

きつと、人はそれぞれ〈心の原風景〉を持ち、その中で自分を作つてきたのだということを、そうすることで確認したいからなのだろうと思う。でも、なぜ確認したいのかは、自分でも分からない。そんな状態で、いまも私は手探りの授業を続けているのである。





ここからは、クラブ紹介のページです。今年は各クラブの個性を味わってもらおうと、割りつけから紹介まですべて自由にしてもらいました。一年生の皆さんは、クラブを決める参考に利用して下さい。

尚、ここに書かれたものはすべて九〇年度現在のものです。顧問等は変更になる場合があります。学年は原則として九〇年度の時点のものです。が、「新」のつくのは九一年度のものとなっています。

活動日 毎週日
活動場所 小松校舎
1年5人・2年6人・3年6人
顧問 北原隆一 三宅恵子 先生

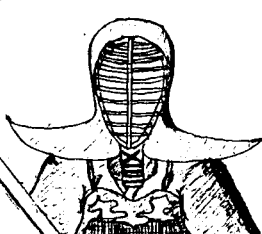
創作ダンス



主に創作をして他に
体操や柔軟もしています。
体のびん入でも大歓迎!

剣道部

① 人数 24人
② 場所 剣道場
③ 活動日 月金3:40~500, エ1:30~3:30
④ 顧問 石川・大川 伊藤先生
⑤ 内容 主に剣道
日曜・祝日 休み
個性豊かな先輩の
待つ剣道場へ
是非一度来て下さい!



柔道部

① 部員数
二年男子 8人
一年男子 13人
一年女子 7人
マネージャー 2人
計 30人

② 活動日・活動場所
月~土の放課後(日曜日はなし!)
月・木は、大阪城公園などで筋力トレーニング
火・水・金・土は、柔道場で柔道の練習

③ 顧問の先生
3人います。強く? やさしい? 勉強家? の先生。

④ 活動内容
柔道では、乱取、寝技を中心に柔道の基本練習
筋力トレーニングでは、バーベルなどを使わずのウェイト
トレーニングやランニングなどの基礎体力作り。


⑤ クラブの名物
有段者を製造

⑥ クラブのモットー
柔よく剛を制す!

新入部員
大歓迎!

図書委員会募集!!

おねがいします!!



- 現在、20~30人くらいいます?
- 図書室(主にカウンター)でやっています。
- 桜井先生
- 本の貸出し、本の整理

特典 本がたくさん貸りれる。
貸出し期限が長い
スタンプが押される...

あ YOUも図書室の主になろうっ!!

放送委員

- 男子4人 女子7人
- 特定の日はなく、文化祭、体育大会などの数週間前に自治会室で。
- 数学科の館田先生です。
- アナウンス部と技術部に分かれていて、主な仕事は主要行事の放送台本を作ったり、当日のアナウンス、又効果音機材やマイクのセッティングなどです。

女子バレーボール部

女子バレー部では2年10人、1年6人で日曜日以外、体育館で基本的なプレイを中心に練習、また大阪域では週1~2回、各自体かあったトレーニングをしています。少ない人数で、短い時間を有効に使い、厳しく、楽しい練習の中で、クラブならでの友人をつくりましょう♡



私のグレイトミラクルをうけるのは君だっ！

男子バスケットボール部

26名のファイトが
体育館をみなぎらす

◎練習 一月~土 放課後
日は試合の日以外は大体
休み

◎先生 庭野先生、根来先生、小村先生

◎入部して得るもの
知力・体力・時の運

(P.S) 女の子の熱い瞳も
募集中!



卓球時代は

顧問 山本耕史先生
秦博先生

男子バレーボール部



顧問 岡崎先生
大矢野先生
岩田先生

活動内容
ホールを
中心に練習
他日休み

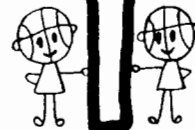
部員 新三年 12名
新二年 12名
新一年 12名
マナー 4名

活動日及び活動場所
月曜日と土曜日の放
課後、日曜日、祭日は
休みの日もあります
活動場所は体育館、大
阪域でトレーニングする
こともあります

新二年に約1
名、名物男と
呼ばれますが存
在します。いた
いハムです、
クラブです、

女子バスケットボール部

部員 新一年 9人 新二年 11人
活動日 月曜~土曜日(大抵日曜あり)
顧問 庭野先生・根来先生
小野先生・堀池先生・角崎先生
小村先生・大塚先生
活動場所 週1回大阪域で体かぶり
あとは体育館で活動しています。



SOFT-TENNIS CLUB

人数
 ・男子 7人 女子 16人

活動日・場所
 ・月・土 硬式テニス交代で、コートを使っています。夕方、コートを使えない日は、朝練・昼練をして、なるべくコートで練習するようになっています。

2年先輩が引退なつて、1年だけがかんばっています。いっしょにさわやかな汗を流してみませんか。



顧問・先生
 ・今西 先生、大橋 先生
 ・半井 先生
 ・長谷 先生
 ・佐谷 先生
 ・近藤 先生

PR
 クラブ内の雰囲気が高めにG.O.です。自慢の大会の時の名物「ユニークな応援」とべとべ応援セッティングがあります。

成績(◎)それはもちろん君達が創りあげていくこのサークル!

夏・プール
 冬・大阪城(日曜日もあり)
 上田先生、中川先生、前先生、横田先生、北原先生、才元先生

冬・当然泳ぎまくります
 冬・陸トレ

硬式 テニス Let's Enjoy Swimming



1. 男子4名 女子8名 and マネージ-2名
2. 日曜日以外は毎日、大阪城と学校コートにて交互に使用練習。
3. 顧問・先生方
 平野 日出夫 先生、広瀬 勝雄 先生、河合 通輔 先生、杉岡 茂 先生
4. 声を出して体力を中心にかけながら、基礎と身につけていく!!

一緒に魚になろう!

登山部

活動日
 月・土
 大阪城

部員数
 男子 7人
 女子 2人

登山案内
 登山 年8回
 消費 ユニークな寒い練習

顧問
 川越 先生、黒田 先生、廣田 先生、竹中 先生

部員数
 男 39名
 女 30名

活動日・場所・内容
 月～土 曜日でグラウンド又は大阪城(鉢ヶ嶺の周りに市民森)を使用しています。主に短冊リバートと中長冊リバートに分れて練習しています。

顧問
 田井谷 先生、長谷川 先生、島田 先生、藤原 先生

TRACK & FIELD CLUB 陸上部

来外! 野生見秀規

LET'S PLAY RUGBY!!

君も大寺前最強軍団だ。

部員 29名

活動 月~土

顧問 荒井・田中・松本 姓

内容 めいせ花園!

マネージャーも募集

男子(25)女子(4)名

Baseball Player



軟式野球部

部員

1年 24人, 2年 13人

マネージャー 3人

活動場所

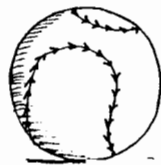
日曜日を除く 週6日
(日曜日は試合, 場外?)
運動場 又は 大阪城

顧問

馬場先生, 中川先生,
若井先生, 田代先生
(計 4名)

活動内容

春から秋は技術練習・
試合をこなし、冬
はトレーニング



硬式野球部へ!!



loopy's

Soft Ball Club

① PLAYER ... 30人

MANAGER ... 4人

(計 34人)

② 毎日(日曜日は試合日以外休校)

③ 雪矢先生, 山元先生, 桜井先生

④ キックボール, 1km7.ランニング etc...

PR: この男子ソフトボール部は、とにかく「明るい」です。

練習中も、「和気あいあい」という感じですよ。

そして、これが「いかに強い」!

もう、言うに及ばず!! ... 感じですよ!!

* ④のetc... は何なのか知りませんが

入部 可也!!



サッカー部



入部希望者は、マネージャーへすぐ!

君も頑張りば、レギュラーを狙えるぞ!

顧問の先生、里先生、吉沢先生、渡辺先生

毎週月~土曜日まで練習、時々日曜日練習、試合

茶道同好会



裏も表もあります。
毎週金曜日に
活躍しています。



老若男女問わず
大歓迎!

さよなら落研

語行変常!

因果た種!



廃部になったよーん!

表主都合により、
御香典、御供花は
遠慮願います。

フォークギター

とっても楽しいです

ギターをするのが初めての方でも
だいじょうぶです
活動は週2回です

ぜひ
入って下さい



映画
研究部
-MOVIES STUDY CLUB-

- <部員数> 2年女子... 5人
1年女子... 4人
- <顧問> 岡先生 山根先生

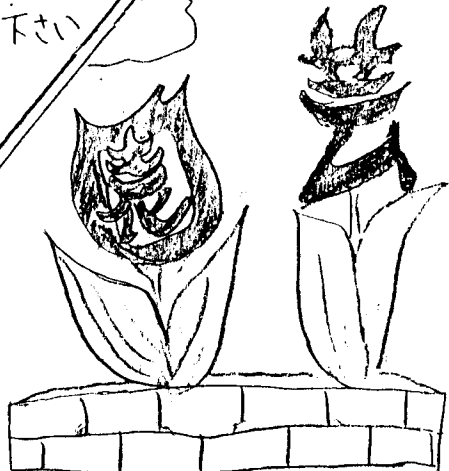
<活動日> 特に決まった日はなし。
だいたい、文化祭、文化部発表会前の
活動が中心

<活動場所> 特に決まった場所はない。

<活動内容> 自分達で映画を制作したり
(レンタルの)ビデオを見たりします

男の子も女の子も入りたい人ならどなたでも
大歓迎です!!

落研は女の子
ばかりでいいよ!!



おひさま!

新聞部

12/14時点、部員2名。(いじりまじり)

活動日は臨機応変、みんなで決めよう。

活動場所、別館2Fのオフィス、地球の上。



どんと来い!

活動日：好きな時

部員数：4人

中川先生の下で
芸術を追求して
います。

E.S.S.

部員数：7人

英語劇やビデオ制作、
英語の歌を歌うなど
の活動をやりたい
時にやっています。

書道

THE ART CLUB

案内美術部

部員数 全16
2年 5人
1年 5人
(内男32名)

活動日
月・火・木・金・曜日
*木曜日は職員会議が
ある日に限る。

顧問
竹川先生(美術)
河瀬先生(国語)
計2名

活動内容
主に、文化祭、高校展、
第3フロア7展に向けての
出品作品の製作。
50号の油絵のまて、デッサンや水彩画
などを描く。

現在は、春の3B展に向けて、製作を開始しています。派手なクラブではありませんが、がんばっています。

THE ART CLUB

写 真 部

校内行事の撮影をしたり、
休みの日に 撮影屋に
行き、各自の美的センスを
磨いています。
暗くて独特の香りに包まれた
暗室での 現像・印画作業は
あなたもとりこにすべしよ(?)



部員
女子 2名
男子 2名

活動日
火曜日

活動場所
理科棟4F
物理実験室

顧問の先生
寺本先生
大川先生

「時間を守る」ではなく「時刻を守る」が正しい(ヘリクソン同好会より)

理化学研究部 俗に「理研」と呼ばれ、昨年から今年度まで、理研のOBがいろいろ由緒正しい(?)クラブです。毎日化学実験室で活動してあります。このクラブには、化学、天文、物理の3つの別室があり、それぞれ化学別室では、みんなでおもしろい化学実験! やる気さえあれば何でもできる! 物理別室では、パソコンを使ってプログラムを書く。初心者が大歓迎! 自分でパソコンをもつてなくてもOK(英語)。最終的には天文別室、天文別室で通常やることは少ないけど2月に1回くらいある流星観望例会で活躍して欲しいのだ!(かんがえて)ばつよし)

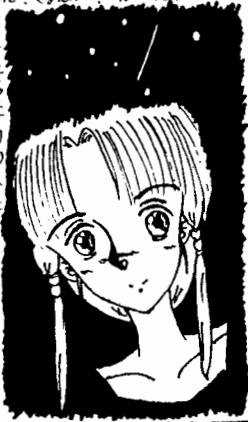
流星観望例会って何? と思っている君に説明しよう! 流星観望例会とは、その名の通り、夜間で満天の星を見上げて流星を見ることが出来る。観望につづいて人生を改めて考えることも出来る。一生で「さかい」(特に顧問の先生(岩井(水島)川越(羽村)野(明理))と部長(70年支部長は羽村)で行く合宿(3泊4日)なら、1晩に100発もの流星を見え!(晴れれば)流星観望の感動は筆舌に及ばない。

さあ、今でも興味をもった君はすぐに化学実験室へGO!(英語)

P.S. 個人的に流星観望してみたい。さかいです。

読んでくれ! (王研)

右の絵が大変面白い。



OTEMAE

Biology

CLUB

(生物部)

※場所: 理科棟2階 生物実験室

※活動日: 火・木・土

今日から君も
生物部員だ!

漫画研究

文芸部

ちれきぶ
CHIREKI-BU
地理歴史研究部

みなさんも伝統の
地歴部に入りませんか?

地歴部とは何ぞや? この
質問に簡単明確にお答えします!

活動内容: 地理 歴史の研究
(読んで書くだけ)

※ スプリングの地図もかくぞ

部員: 正部員は2人だけなのさ!
(仮入部も何人かいます) H.2.12.1現在

活動日: 火&金よーび (増減あり)

顧問の先生: 今西先生・桜井先生・松川先生
(H.2以降)

特典: 入部すれば段ボールからあるほんのり本の読み放題

入部希望者募集中 (おけち可・くけしは別館部室まで)

CHIREKI・片・CHIREKI・片・CHIREKI・片・CHIREKI・片・CHIREKI・片・CHIREKI・片・CHIREKI・片・CHIREKI・片・CHIREKI・片

人数: 女11人。

活動日: 毎週 火・木曜日。

場所: 部長の普通教室。

顧問の先生: 竹中先生と
廣田先生

活動内容:
こんな絵が描ける
ようになるよ

よこらじかい
見せたい

女子ばかり4人の部です。
活動日は毎週、金曜日曜
(変更できます)

別館2Fの共同部室で活動してます!!

顧問は田代先生と中村先生です。

文化祭と文芸クラで尾
示威、年五回の部誌
の発行もしてます。

よろしければ、来てね。

Hello !!
 現在、私達の
 コーラス班の人口は
 男子12人、女子20人です。
 練習は月曜～木曜の週4回。
 顧問広田大助先生が見守る中、
 楽しく歌を歌っています。
 みなさん、一緒にわかちあいませんか？
 歌うことの素晴らしさを !!

CHORUS 班
 コーラス ~音楽部~

♯活動日 毎週金・土曜日
 の放課後

②: 活動内容
 変な班長 どのくらい美人が列の三年生と、元氣な
 元氣な二年生で計4バンドあります。(1学年25名)
 楽曲は主に邦楽のコピーをどきどきしています。
 活動は校内に限られていますが、文化祭
 とその文化祭クラブ発表会には定期的に
 に出演できる事になって封。
 初心者大歓迎です。
 年長は絶対技巧派も
 OKです。

部員数 新二年: 男子2名 女子6名
 新三年: 男子1名 女子8名

顧問の先生
 竹中秀喜 先生
 黒田昭二 先生
 広田大助 先生
 長谷川清一 先生

Brass Band

①人数
 ②練習場所
 ③顧問の先生
 ④練習内容

ff

① 64 (Boys 13 Girls 51)
 ② 毎日 / 大阪城
 ③ 廣田先生・馬場先生
 ④ パート練習・合奏・個人練習

P.S
 文化祭・コンクール etc
 年間行事いろいろ
 合宿もあるよ

部員18名(男1名、女17名)
 活動は週3日(基本的に日曜はあひだり)
 顧問は 森先生 森本先生
 活動内容は 筋トレ・発声練習ですが、舞台がなんせ多りで、
 年中様々な劇の練習に費やします。
 昨年はコンクールで優秀賞を頂き、着々と実力を付けている元気なクラッシュです。
 今入部してがんばれば、絶対一緒にスゴい舞台に立ります!
 (特に6月文化祭の青少年会館は照明はスゴい声屋はあるし
 舞台も大きい! 本物の役者気分です。こんなチャンスはこの先、
 絶対ない) そして、劇の命であるスタッフさんも大募集。
 仕事は難しくないません。優しい先輩がおいてくれるから大丈夫
 だよ
 絶対ある。
 人は...
 まで
 遊びに来てね!

演劇部

こんなん ありましたけど

豊田 豊

空手

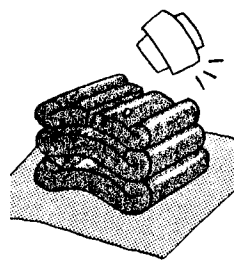
部員不足などの理由で休部・廃部となり、降りしきる時間に埋もれて、今日では忘れられてしまった数々のクラブや同好会。彼らの復活する日は果たして来るのでしょうか。今回は彼らの遺言とも言えるべき「最期のクラブ紹介」を中心に扱ってみました。

故空手道部

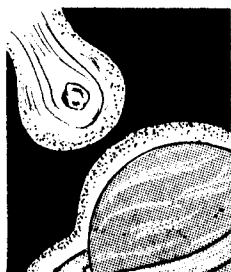
「一般に『空手道部』などと言うと、いかつい顔した物騒ぎな連中の集まりという印象があるが、当部は無用の因習にとられる事なく、シンプルで実戦的な空手を目指し、少数精鋭主義で頑張っております。さあ、君も空手道部で不屈の精神を養おう！」と言い残して、昭和五五年頃、亡くなりました。

故SF同好会

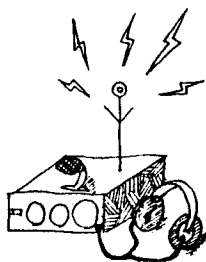
「常に愛とロマンを追い求める集まり、機関紙『ジャンプロウ』の発刊の他、多彩(?)な活動を日夜、続けております。あなたも当会で未来を夢見ませんか。ついでに痴性と狂養も身につけよう」



SF



通信



未来を夢見ようと言って、過去に滅びてしまいました。

昭和五五年頃没

故通信研究部

「無線器を扱っております。とてもマイナーなクラブですが、大手前にとって、ぜんざいにおける塩のようなものではないかと……私達は信じています。好奇心のある方大歓迎！」

昭和五九年頃没

故放送部

「普段は週一回あるかないかの活動をしておりますが、行事前ともなると俄然表面にしゃしゃりでてくる部なのです。アナウンス、放送機械の設置、操作に興味のある人を募集しております。昼休みにDJをやることを夢見て頑張っています。」

昭和六三年頃転生

放送部はなくなっても、放送委員会として現在、活動しています。

故鉄道研究同好会

「鉄道とは何ぞや、庶民の足であり、旅のロマンを与えてくれる物であります。では鉄研同好会とは何ぞや、度重なる国鉄、私鉄の運賃値上げにもめげず、ひたす

ら、あのガタン、ゴトンという音に乗りたがる者の集まりなのであります。どうです皆さんもあの音に酔いしれてみませんか。”

昭和六三年頃没

百人に一人は必ずいると言われる鉄道マニア。今は亡きクラブの中で、最も復活する可能性の高いのは、これではないでしょうか。

放PCC

正式名称はバーソナル・コンピュータ・クラブ。モットーは部員に強制して物事をさせぬ、自由な同好会。練習というものはなくいつも実践ですが、コンピュータに関心、興味のある人、どしどし入部して下さい。合言葉は「いつかは部へ昇格だ！」

部に昇格するどころか、廃部になってしまいました。尚、現在では理研の物理班が、コンピュータ関係者を扱っています。

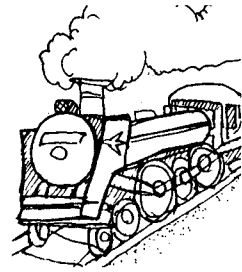
昭和六三年頃没

放ゲーム研究同好会

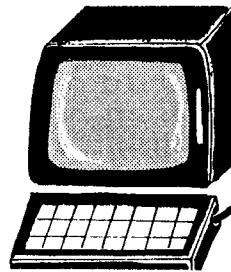
パワーベースボール等、高級なゲームをしております。合言葉は『負けても常に明るく、インチキなし！』あなたも入れば、相手の心理を読む力と、運の良さが身につきます。”

“オレたちで、いよいよ終わる、同好会”という句

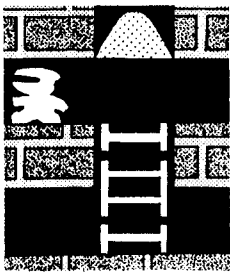
鉄道



P P C



ゲーム



を残して、昭和六三年頃なくなっていました。

この他、消え去ったクラブは幾つかあると思います。しかし、はっきりとした記録のあったのは以上でした。尚、クラブ再建等については、生徒手帳P46〜P49を御覧下さい。

新入生の皆さん、新二年生の皆さん（今からでも遅くない）、クラブ活動は、その道の技術、知識を身につけるだけでなく、同じ様な趣味の人間が集まることによつて、連帯感というとても温かい幸せを得ることが出来ます。それにたとえ苦しい部活動であっても、そういう仲間と過ごした高校生活は、後になってとても大きな思い出となるでしょう。

「若い頃の苦労は、金を払っても惜しくない。」とよく年輩の方が言われます。そういう人の様に後で悔やまぬよう。若い私達は何かに一生懸命になるべきです。各クラブともあなたに対して、扉を開いています。

さあ、入部届を右手に、その扉の中へ飛び込みましょう。

P. S.

放送部は放送委員会としてクラブ紹介にのっているのでカットははぶかせていただきました。

詩③

PERIOD

水野 夏奈子

すべてが 芽ぶき

育ち

様を変え

旅に出る

四つの季節が三度めぐり

今 “PERIOD” を告げる……

“PERIOD” ——

この世に生まれ落ちて、受け止めてきた出会いと別れ。
心の隅できらめいているもの。
時代。

“PERIOD” ——

時の歯車廻る 旅路の最中きなか ふと振り返る道
心締めつける——再会

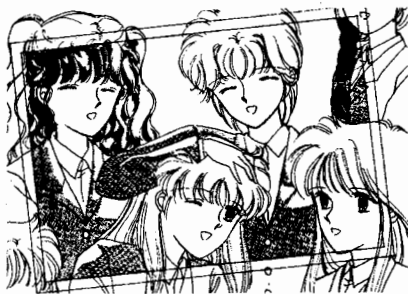
再会は思い出と出会うことではなく
再び思い出を作るために出会うこと。

朝な夕な 顔を突き合わせた仲間達は
もう隣にはいない。

全てが終わったわけじゃない
ただ共通の “時代” を完了しただけ。

歩んでいく それぞれの “PERIOD”
寄せては返す波のように 繰り返し繰り返し……

いつか再び出会う、その日のために
昨日の自分を脱ぎ捨てながら——



BY 谷村 雅美

今まで読んで下さったみなさん、ありがとうございます。みなさんはどう感じられましたか。私たち編集委員一同は時間を作り、主張を述べ、編集に携われたことを嬉しく思っています。さらにもなさんが在学中に手にする四冊のスプリングを数十年後目にする機会があった時に懐かしく思ってた下さったら、幸いです。

早いものでスプリングは創刊以来三十一年。大手前生と共に様々な経験をしてきました。ここで、創刊に到った歴史的背景を振り返ってみます。当時、高津高校における自治会役員のお会で、文化系クラブ発表の雑誌が好評だったので、大手前もこれに見習ったのでした。以来、主義・主張が飛び交った時代もありました。しかし今日では、先輩方が創りあげた伝統の中に浸ってしまい、一人一人の積極性が薄れ、自治の精神も薄れてしまっているように思います。

今、世界は激動の真只中です。一昨年は中国で、昨年はドイツで、今年になってからは、ソ連で、中東で、歴史的な事件がありました。そんな中で、私たちは何をしていくべきでしょうか。私たちは理想の世界を創るために、積極的に考え、そして行動していかなければならないと思います。

この雑誌の「スプリング」という題名の意味するように、「春」のように生き生きと、「泉」のように新鮮に、「躍動」のように力強く、私たちが未来へはばきたいいきましよう。

編集委員代表 田口 正弥

編集後記

読んでくれて
どうもありがとう

2-2 鍋島

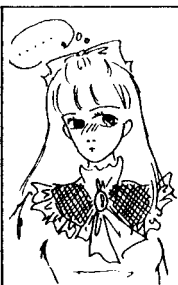


2-8

橋本 一恵

ははははは

たのしみだね



何も担当もせず、欠席も多く、
ただ著記をやっていただけ
です。役立たずで申し
訳別はせんでした。

1-3 森下智華子

←意味不明です。

「賢明な天子があらわれなくて
天下のたれが余を尊ぶことが
あろうか。余の命も永くはない。」
偉大なる Confucius の最後の
言葉より

2-10 白山貴之

